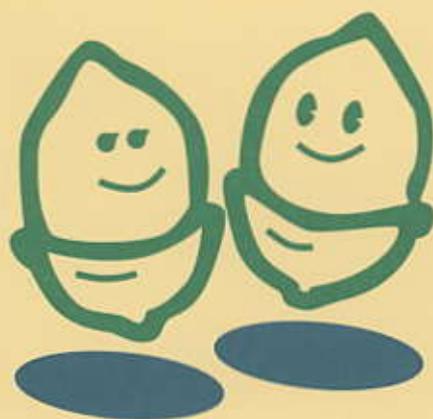


平成15・16年度

研究紀要

—自然学校が与えた影響について～平成8年度の調査と比較して～—
—自然体験学習の実態と教育的効果についての調査研究—



兵庫県立
南但馬自然学校

HYOGO KENRITU MINAMI TAJIMA SHIZEN GAKKO

はじめに

子どもたちは「遊び」で育つのではないか、と私は思っています。数を覚えたり、言葉や字を覚えたり、就学前の子どもたちはみんな熱心です。子どもたちにとってそれはみんな遊びなんです。6歳になって、それが遊びでなくなると、子どもたちはみんなそれが嫌いになってしまいます。

「もしも子どもを遊び嫌いにすることができたら、人類を亡ぼすことができるだろう」かなり前の「どんぐり」(本校機関紙)に書きました。たった5泊6日ですが自然学校は遊びを通じて人類を滅亡から救う「人類防衛」のお城です。

「学力低下」論議がにぎやかになってきました。自然学校に対して「遊んでいないで勉強を」なんて圧力がかかってこないとも限りません。子どもたちを勉強嫌いにすることに成功した魔の手が勢いに乗って「今度は遊びも」と言って攻めてくるのです。子どもたち、遊び嫌いになるばかりか勉強嫌いも加速するでしょう。

自然学校事業の「中核施設」である本校の調査、研究、開発は、初めのうちはプログラムの開発が主でしたが、ゆとりを持った5泊6日の流れを考えたり、子どもたちにどんな変容をもたらしたかを評価したり、そんな観点が入ってきました。そして今回は、時(8年前)、場所(他府県)を変えての調査との比較という意欲的なテーマでやってみました。兵庫県の自然学校が、遊びを守り子どもたちを守るそんな役割を実際に果たしているか、考える足しにしていただけると思います。

私が7年前本校に来た時は、自然学校事業発足10年、内外の評価も定着し、安定的に進んでおり、ゆとりプログラムが主流となってきた頃です。そんな風に変わりながらも、その頃すでにマンネリズムの懸念が言われ始めていました。

自然学校、もっともっと変わっていく必要があるでしょう。でも、本当に変わる必要があるのは教育自体です。自然学校で培ったもの、それは必ず教育全体がどう変わるべきかを教えてくれるでしょう。そんな観点からの調査・研究、そろそろ手をつけるときではないでしょうか？

平成17年3月

兵庫県立南但馬自然学校長
森本雅樹

兵庫県の自然学校は昭和63年に開始されてから、本年平成16年度に17年目を迎え兵庫県独特の教育事業としてすっかり定着した観があります。

今年度の調査研究は、経験とさまざまな取り組みを積み重ねてきた本事業が、時間を経ただけではなくどのように定着し、成果をあげているのかを客観的に把握するための研究「自然学校が与えた影響について～平成8年度の調査と比較して～」と、他都県における類似事業と比較検証する「自然体験学習の実態と教育的効果についての調査研究」を行いました。前者の調査では、以前にも増してこれから自然学校にでかけるこどもたちには大きな楽しみとしての、体験を終えたこどもたちには大きな思いでの存在となっていることが見て取れます。送り出す保護者にも理解が進み、本事業が当たり前の事として心構えが出来ている様子が伺えます。後者の調査では他都県の事業と比較する事によって兵庫県の本事業が浮き彫りになっています。特に5泊6日というのが兵庫県のいわゆる「売り」ですが、この期間設定が大いに意味のある事が改めてわかり、兵庫県の独りよがりの事業ではないことが一層明らかになりました。

時間がある程度積み重なった事業に、劇的な変化はあまり見られないのが一般的であり、場合によっては衰退の傾向が見られる場合があります。しかし今調査では、自然学校の財産と力がじわりじわりと蓄えられていることがわかりました。この結果は、将来の自然学校発展に自信を深めてよいという事に他なりません。

このところ子どもたちの学力低下が危惧され、ゆとり教育が見直されようとしています。確かに教育観は様々であり、現状が必ずしも良いとは言えないかもしれませんが、いつの世も変わらないのは「よく学び、よく遊べ」です。自然学校は目先の議論に振り回されることなく、いつまでもよく遊び、よく学べる場であってほしいものです。

平成17年3月

兵庫県立南但馬自然学校
調査・研究委員会

委員長 山 田 誠

目 次

○ はじめに

第 I 部

第 I 部

自然学校が与えた影響について ～平成8年度の調査と比較して～ …… 1

第 II 部

自然体験学習の実態と教育的効果についての調査研究 …………… 23

* 補 足 資 料

第 I 部

自然学校が与えた影響について ～平成8年度の調査と比較して～

神戸市外国語大学教授 山田 誠

関西学院大学助教授 甲斐知彦

兵庫県立南但馬自然学校指導主事 日下康代

兵庫県立南但馬自然学校指導主事 森本良孝

自然学校が与えた影響について ～平成8年度の調査と比較して～

【はじめに】

昭和63年度より開始された「自然学校」は、本年度で17年目を迎え、兵庫県の小学校教育において、特徴的な教育活動として、その役割を果たしてきた。そして、その成果を確認するため、平成8年度の本校の研究紀要では、小学校5年生とその保護者、中学校2年生とその保護者、高等学校2年生に対して、自然学校が与えた影響を調査研究した結果を報告した。今から8年前の当時、既に自然学校での成果を、いくつも報告していたが、この報告は、今後の自然学校の充実をさらに図るためには、常に教育の今日的課題を視点においたプログラム開発が必要であるとの考えから、その糸口を探るために行ったものである。

ところで、近年、小学校教育では、学校週5日制、ゆとり教育、総合的な学習の時間などの制度が実施され、8年前と比べ、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化したといえる。そのため、このような環境の変化に応えながら、自然学校をより充実させる取組みは、調査研究委員会の設置、プログラム検討委員会の設置などであり、努力を重ねている。

そこで、本報告では、再度、平成8年度に行われた調査を実施し、その当時の結果と比較することで、これまでの取組みの成果や、今後の取組みの指針を探りたいと考えた。そして、第1部では、平成8年度と平成16年度に自然学校を体験した小学生とその保護者の結果を比較することで、第2部では、自然学校を体験して、3年あるいは、6年を経過した中学生、高校生の経年的変化について、平成8年度の結果と比較することで、これまでの取組みを評価し、今後のさらなる自然学校の発展のための糸口を探ることを目的とした。

【方 法】

平成8年度に実施した調査をもとに、その際に使用した質問紙を用いて、下記の対象に対して、平成16年7月1日～9月30日の間で各学校の都合の良い日時に調査を行った。なお、中学生、高校生、及び保護者については、前回の調査との比較をしやすくするため、選択肢法を用いて質問紙に修正した。

1. 調査対象

第1部では、本年度自然学校を実施した小学校5年生とその保護者、そして、第2部では、3年前に体験した中学校2年生、および6年前に体験した高等学校2年生を対象とした。

- ・小学校5年生
平成16年度全県自然学校体験者
(51,601人のうち、325名)
- ・中学校2年生
平成13年度全県自然学校体験者
(53,331人のうち、429名)
- ・高等学校2年生
平成10年度全県自然学校体験者
(57,900人のうち、441名)
- ・保護者
調査対象となった小学校5年生の保護者
323名

表1

	小学校5年生		中学校2年生		高等学校2年生	
	男	女	男	女	男	女
回答者数	162	163	227	202	189	252
	325		429		441	
自然学校体験者数	160	163	224	200	177	242
	323		424		419	

	5年生保護者
対象者数	323
回答者数	282

2. 調査対象校

- 調査対象校の抽出は、以下の点を考慮して行った。
- ・調査地域が偏らないよう、前回調査時の6教育事務所管内（現在は10教育事務所）および神戸市教育委員会管下のそれぞれの地域から抽出する。（北播磨は前回調査時の東播磨に該当する）
 - ・単独実施と合同実施では影響の内容が異なると考えられるため、合同実施からも抽出する。
 - ・学校所在地域の環境に片寄りが無いよう考慮する。
 - ・学校規模を考慮する。

表2 調査学校

対象学年	地区	学校名
小学校5年生 とその保護者	神戸	神戸市立花山小学校
	阪神北	川西市立陽明小学校
	北播磨	小野市立市場小学校
	西播磨	一宮町立染河内小学校
	但馬	日高町立日高小学校
	丹波	氷上町立中央小学校
	淡路	三原町立神代小学校
中学校2年生	神戸	神戸市立唐櫃中学校
	阪神南	西宮市立真砂中学校
	北播磨	吉川町立吉川中学校
	西播磨	一宮町立一宮北中学校
	但馬	出石町立出石中学校
	丹波	篠山市立篠山東中学校
	淡路	洲本市立安乎中学校
高等学校2年生	阪神	県立西宮高校
	丹有	県立三田西陵高校
	東播磨	県立加古川東高校
	西播磨	県立佐用高校
	但馬	県立村岡高校
	淡路	県立津名高校
	神戸	県立星陵高校

3. 調査項目

質問紙では、平成8年度の調査と同様に、以下の項目を調査した。

①小学校5年生

- ・自然学校実施前の気持ち
- ・自然学校前の心配や不安なこと
- ・自然学校前に取組んだこと
- ・自然学校を終えたときの気持ち
- ・自然学校で感動したこと
- ・自分で自分をほめたいこと
- ・自然学校でつらかったこと
- ・5泊6日の間に家に帰りたと思ったこと
- ・自然学校をきっかけにやり始めたこと
- ・自然学校を体験して自信がもてるようになったこと
- ・もう一度自然学校のような体験をすること

②中学校2年生・高等学校2年生

- ・小学校での印象の強い行事や学習活動のこと
- ・自然学校で感動したこと
- ・自然学校をきっかけに、興味・関心を持ったこと
- ・5泊6日の自然学校の生活を通して、心がけるようになったこと
- ・自然学校の体験が役立ったこと
- ・自然学校を終えて自信がもてるようになったこと
- ・もう一度自然学校のような体験をすること

③小学校5年生の保護者

- ・自然学校を体験させたこと
- ・自然学校に向けて取組んだこと
- ・自然学校実施期間中、子どもと離れて思ったこと
- ・子どもが自然学校から帰ってきた時に感じたこと
- ・自然学校をきっかけにした子どもの変化のこと
- ・自然学校をきっかけにして、子どもとの関わりで変えたこと
- ・もう一度自然学校のような体験をさせること

【結果・考察】

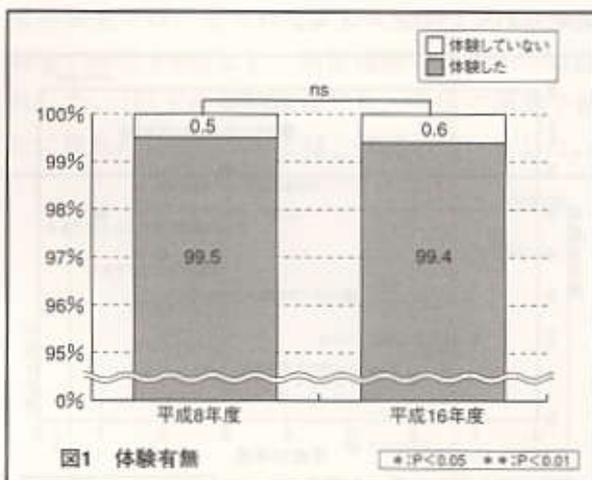
第1部

1. 小学生

・体験の有無

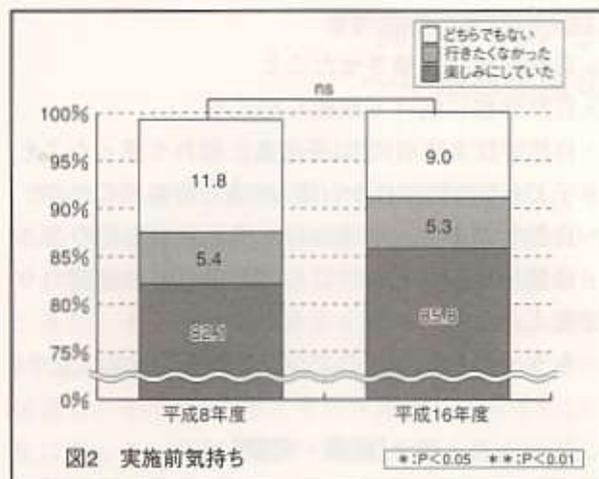
図1は、調査対象児童に、自然学校を体験したかをたずねた結果である。今回の調査でも、前回調査と同様に高い体験率であり、両者を比較して、有意な差は認められなかった。

※なお、以下の調査結果は、自然学校を体験したと答えた児童325人の回答の結果である。

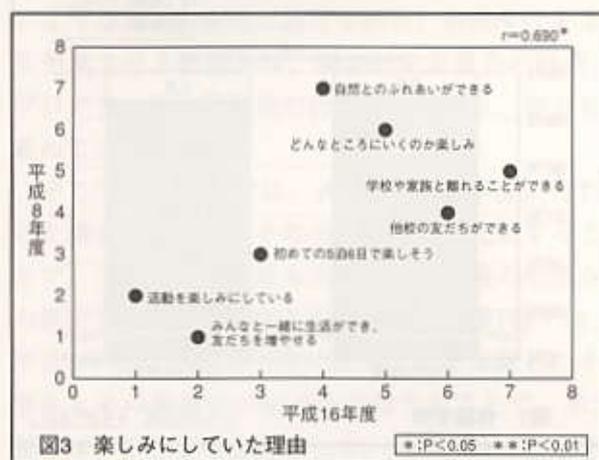


・自然学校実施前の気持ち

図2は、「自然学校を行う前、どんな気持ちでしたか」という質問に対する結果である。自然学校を「楽しみにしていた」と答えた児童の割合は前回調査で82.1%、今回の調査で85.8%と、ともに高い値を示している。一方、「行きたくなかった」と答えた児童の割合は、前回調査で5.4%、今回調査で5.3%と、ほぼ変わりのない結果となった。また、「どちらでもない」と答えた児童の割合は、前回調査で11.8%であったものが9.0%とやや減少傾向にあり、それらの児童が「楽しみにしていた」と答えた児童の割合を若干、高めたものと思われる。

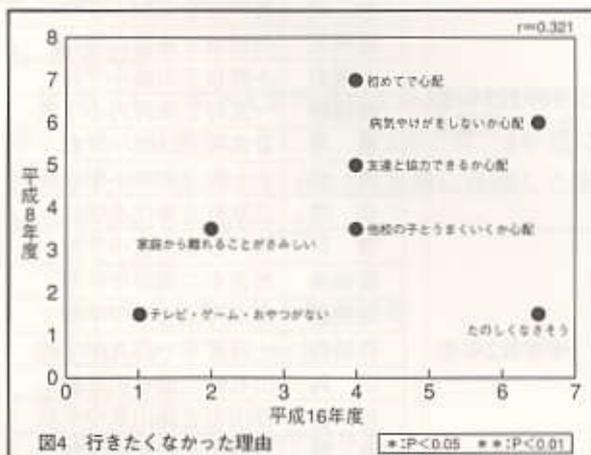


さらに、「楽しみにしていた」と答えた児童にその理由をたずねた結果が図3である。この図は、横軸に、今回の調査での順位を、縦軸に、前回の調査での順位を示し、両調査での理由の順位関係を表したものである。(以下、散布図については同様)両者の順位相関については、有意に認められ ($P<0.05$)、児童の自然学校に対する期待は、前回調査時と同様に、活動自体や友人との共同生活に寄せられているといえる。



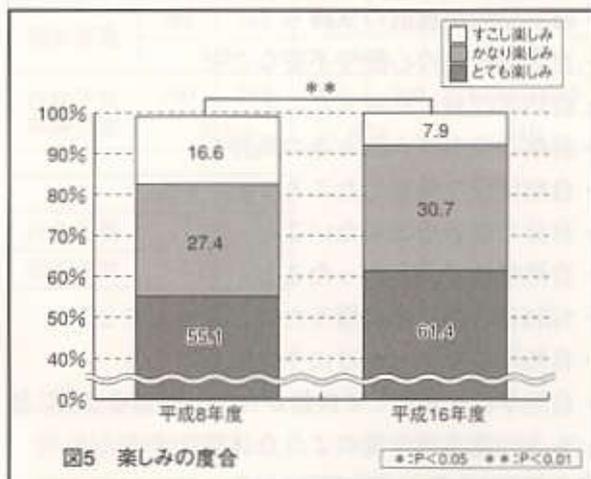
一方、「行きたくなかった」と答えた児童にその理由をたずねた結果が図4である。両者の順位相関については、有意に認められなかったものの、「楽しくなさそう」を除く、他の理由では、その順位は、ほぼ、直線関係にあり、前回調査時と同様に、行きたくない理由として、「テレビ・ゲーム・おやつがない」「家庭から離れることがさみしい」が上位となった。また、「楽しくなさそう」については、前回調査時では、「テレビ・ゲーム・おやつがない」と並んで上位にあったものが、今回の調査では最下位となり、現在の児童にとっ

て、自然学校は、学校行事の中でも、楽しみなものの一つとして定着しつつあると考えられる。



・自然学校実施前の楽しみの度合い

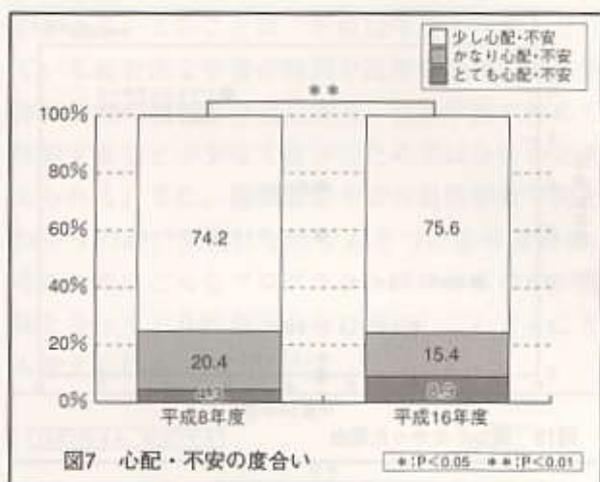
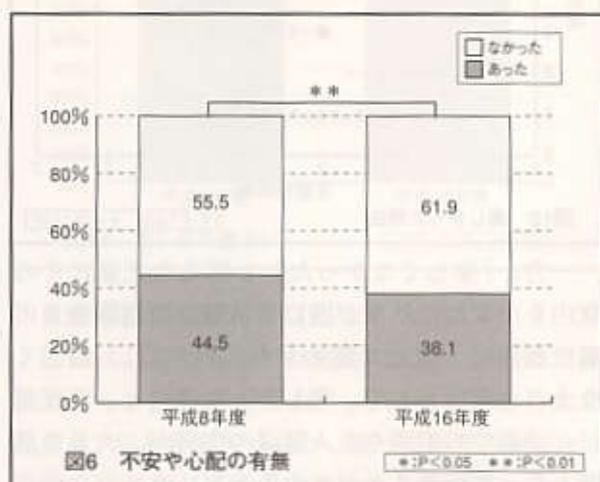
図5は、前出の質問で「楽しみにしていた」と答えた児童に対して、その度合いをたずねたものである。図に示すとおり、「とても楽しみ」、「かなり楽しみ」の割合が増えており ($P<0.01$)、前回調査時に比べ、実施前に自然学校を楽しむにしている気持ちは強くなっているといえる。このことは、現在、行われている自然学校が選択プログラムによる展開を採用しているなど、これまでの画一的なプログラムから、多様なプログラムへと変化したためではないかと考えられる。



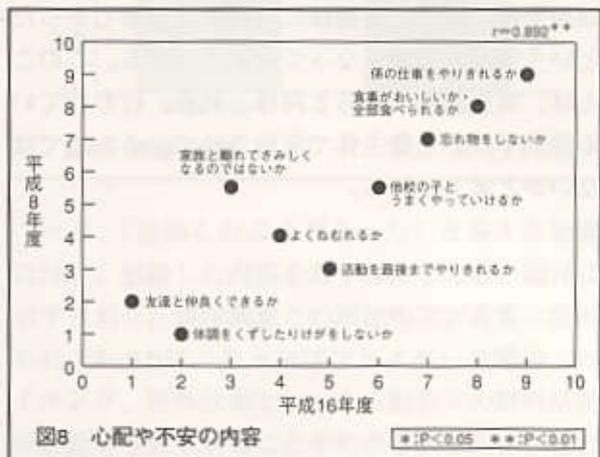
・自然学校実施前の心配や不安

図6は、自然学校実施前に心配や不安があったかをたずねた結果である。図に示すとおり、「不安や心配があった」と答えた児童は、前回調査時に比べ、減っており ($P<0.01$)、多くの児童が安心して自然学校に参加したと思われる。このことは、各学校において、十分な事前準備がなされていることの現れではないかと考えられる。一方、「不安や心

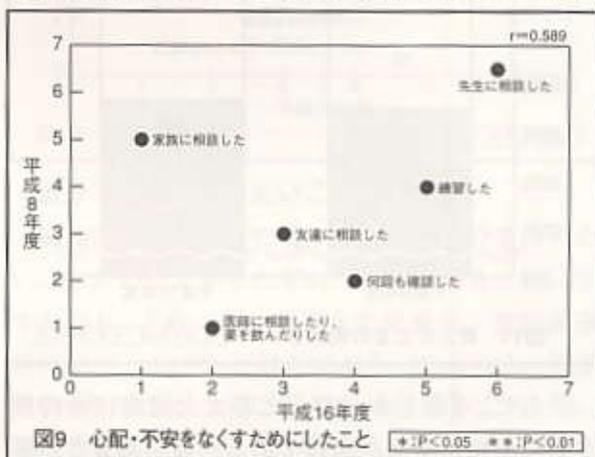
配がある」と答えた児童の不安や心配の度合いは、図7に示すとおり、前回調査時よりも、「とても不安や心配がある」と答えた児童の割合が増えており ($P<0.01$)、不安や心配を抱える児童は、その問題が深刻化している可能性があると考えられる。



また、不安や心配の内容については、図8に示すとおり、前回調査との間の順位相関が有意に認められ ($P<0.01$)、児童の不安や心配は、友人関係や健康面に寄せられているといえる。



さらに、これらの不安や心配をなくすためにしたことを前回調査と比較したものが図9であるが、前回調査時では、5位であった「家族に相談した」が、今回は1位となり、家庭で自然学校への事前の取組みが十分なされていると考えられる。その点について、学校や家庭での事前取組みとして、練習したり、調べたり、相談したりしたことを前回調査と比較したものが図10であるが、前回調査との間の順位相関が有意に認められ ($P<0.05$)、自然学校で行われる活動の準備が今回の調査でも上位を占めていることがわかる。さらに、今回の調査では、「活動の計画や立案等」が1位となり、単に与えられた活動を上手に行うための準備だけでなく、主体性をもって、活動の計画や立案等に児童が関わっていることがわかる。このことから、近年の自然学校が児童主体で運営されており、毎年、兵庫県教育委員会から示される自然学校実施要項が現場レベルで理解・浸透していることがうかがえる。なお、図の中で、「活動の計画や立案等」「行く場所等をネットで調べた」については、前回調査では、見られなかった回答であるため、縦軸の順位を0位とし、順位相関の検定からは除外した。(以下の質問項目でも、今回の調査で新たに現れた回答については、同様の扱いとした。)



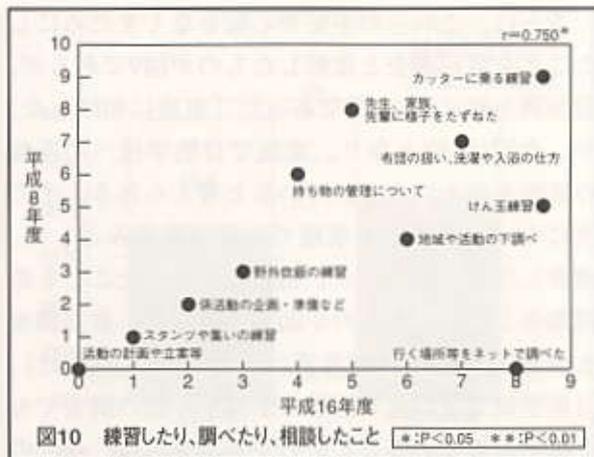


図10 練習したり、調べたり、相談したこと

・自然学校を終えたときの気持ち

図11は、「自然学校を終えたとき、どんな気持ちでしたか」という質問に対する結果である。「楽しかった」と答えた児童の割合は前回調査で81.6%、今回の調査で84.5%と、ともに高い値を示している。一方、「楽しくなかった」と答えた児童の割合は、前回調査で6.0%であったものが4.0%とやや減少傾向にあり、それらの児童が「楽しかった」と答えた児童の割合を若干、高めたものと思われる。

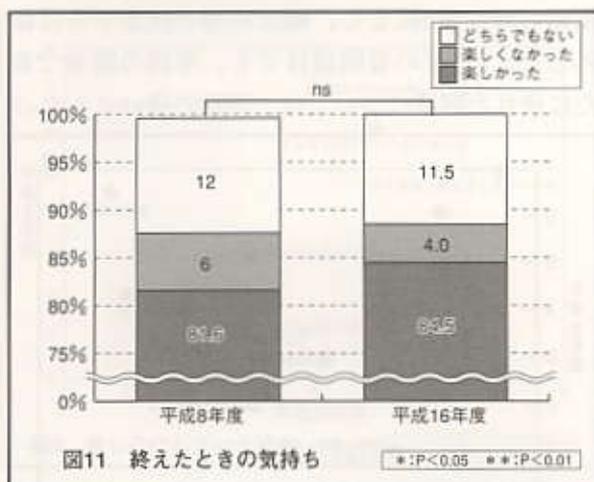


図11 終えたときの気持ち

さらに、「楽しかった」と答えた児童にその理由をたずねた結果が図12である。前回調査との順位相関は、有意に認められ (P<0.01)、楽しかった理由として、活動の充実や友人との良好な関係が、高いウエイトを占めていることがわかる。

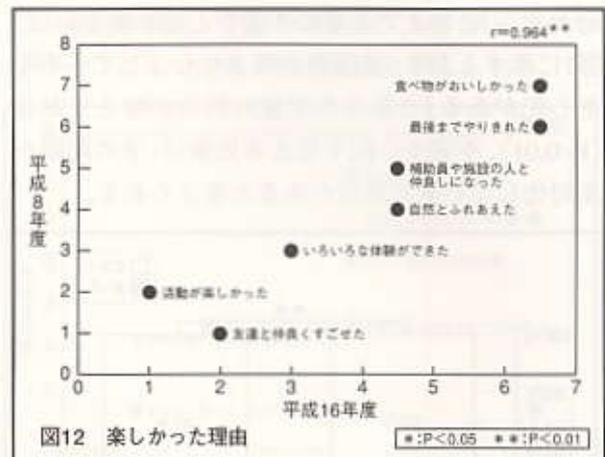


図12 楽しかった理由

一方、「楽しくなかった」と答えた児童にその理由をたずねた結果が図13である。前回調査との順位相関は、有意に認められ (P<0.01)、楽しくなかった理由として、楽しかった理由と、正反対に、活動での不満や友人関係の失敗が、大きな原因となっていることがわかる。

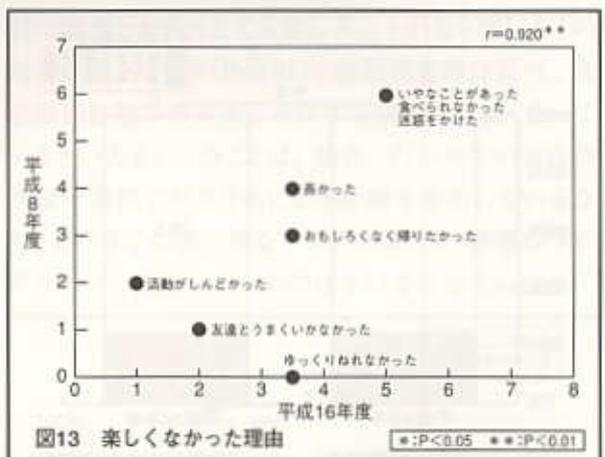
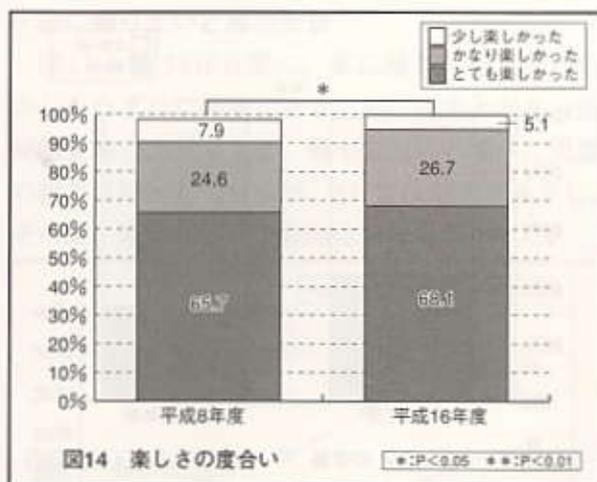


図13 楽しくなかった理由

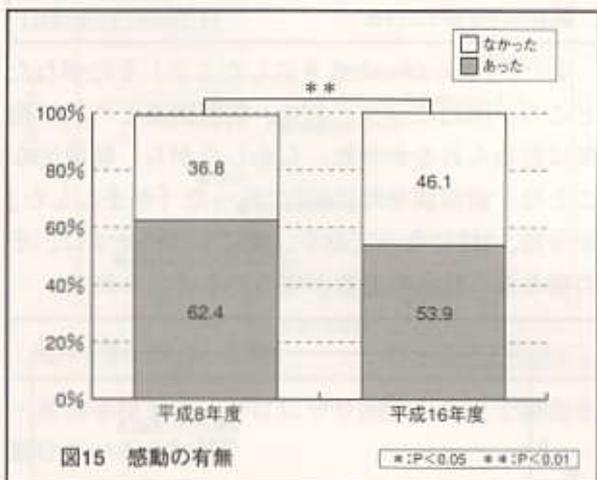
・自然学校実施後の楽しさの度合い

図14は、前出の質問で「楽しかった」と答えた児童に対して、その度合いをたずねたものである。図に示すとおり、「とても楽しかった」、「かなり楽しかった」の割合が増えており (P<0.05)、前回調査時に比べ、実施後に自然学校を楽しかったという気持ちは強くなっているといえる。このことは、実施前の気持ちと同様、現在、行われている自然学校が児童主体で実施されているためではないかと考えられる。



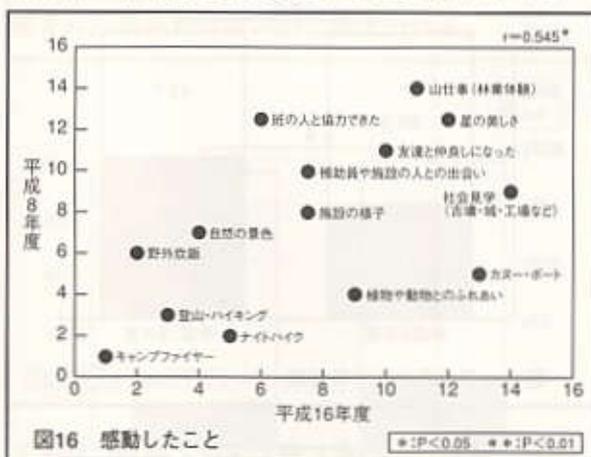
・自然学校で感動したこと

図15は、自然学校での感動の有無をたずねた結果である。図に示すとおり、「あった」と答えた児童は、前回調査時に比べ、減っており ($P<0.01$)、児童の約半数が感動がなかったと答えていることがわかる。このことは、平成12年度より導入されている総合的な学習の時間や近年の地域での自然体験活動の取組みなどにより、自然学校で初めて体験することが少なくなったためではないかと考えられる。また、指導者が今回の自然学校で何をねらうのか、児童にどんな力をつけさせるのか、そのためにどんなプログラムを提供するのが暖味となっており昨年どおりで実施してしまうことも考えられる。

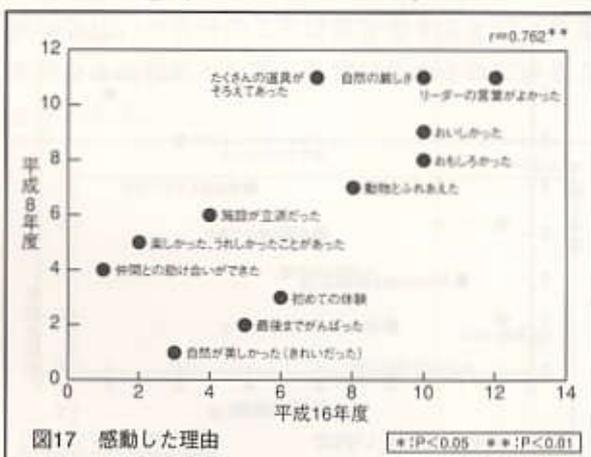


一方、「感動したことがあった」と答えた児童に対し、感動した内容をたずねたところ、図16に示すとおり、前回調査との順位相関が有意に認められ ($P<0.05$)、キャンプファイヤーや登山・ハイキング、野外炊事といったお馴染みの野外活動が感動を与えていることがわかる。さらに、社会

見学やカヌー・ボートといった活動が、前回調査時に比べ、順位を落としていることがわかる。

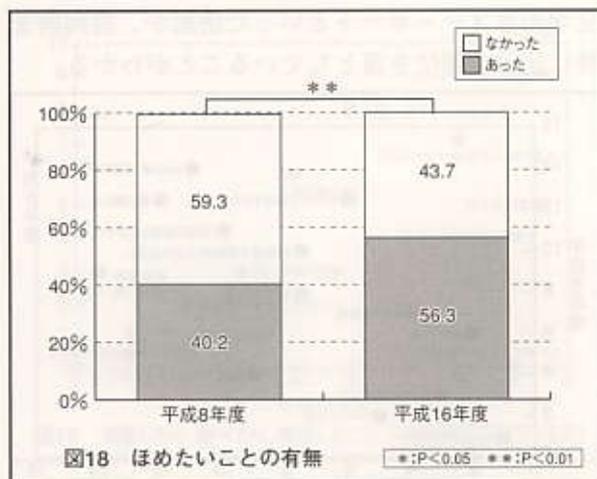


また、感動した理由についても、図17に示すとおり、前回調査との順位相関が有意に認められ ($P<0.01$)、仲間との助け合いができたことや自然の美しさに感動したことがわかる。

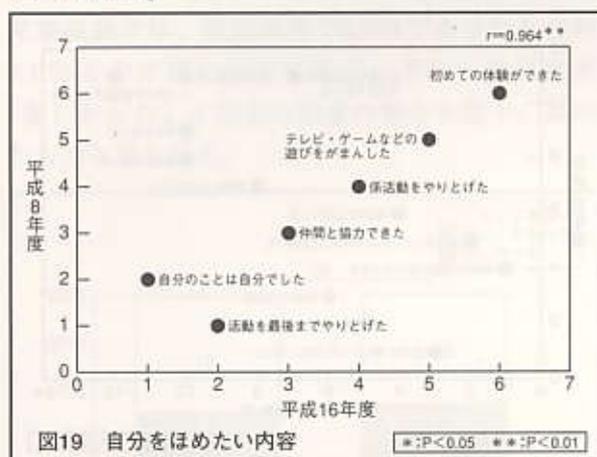


・自分で自分をほめたいこと

図18は、自然学校の最中に自分で自分をほめたいことがあったかをたずねたものである。図に示すとおり、「あった」と答えた児童は、前回調査時に比べ、56.3%と増えており ($P<0.01$)、児童の約6割がほめたいことがあったと答えている。このことは、前述しているが、近年の自然学校のプログラムが選択制などの工夫がなされており、児童が主体的に関わるため、このような結果になったのではないかと考えられる。

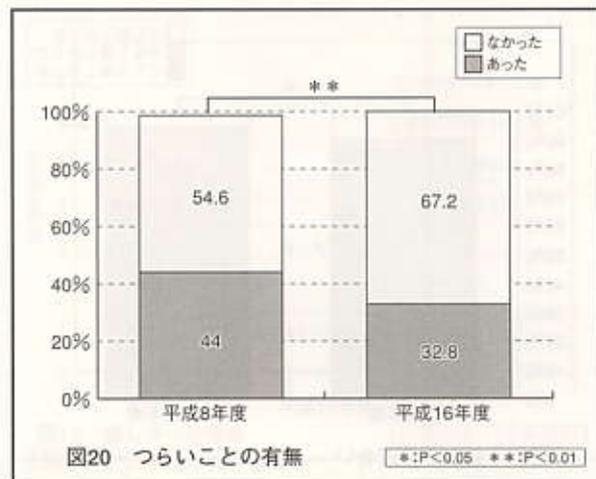


また、ほめたい内容に関しては、図19に示すとおり、前回調査との順位相関が有意に認められ ($P<0.01$)、活動を達成したことや人に頼らずに自分のことができたことをほめたいと考えていることがわかる。

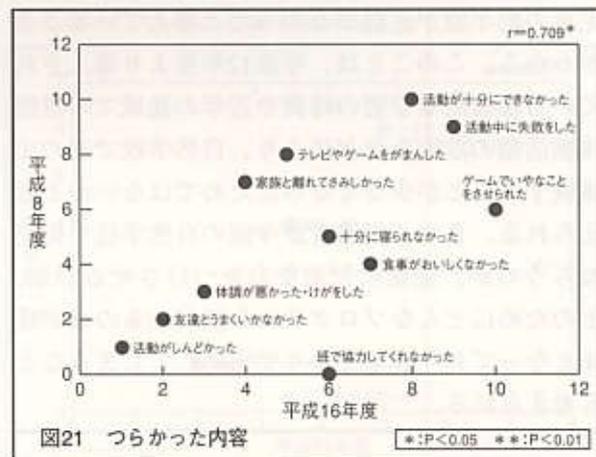


・つらいこと

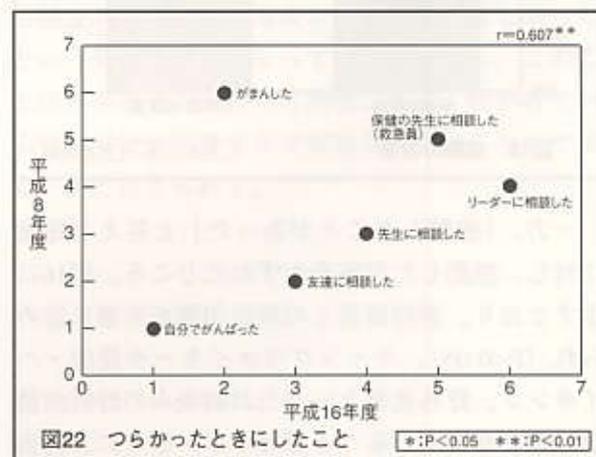
図20は、「自然学校の最中につらいことがあったか」をたずねたものである。図に示すとおり、「あった」と答えた児童は、前回調査時に比べ、32.8%と減っており ($P<0.01$)、このことも、近年、児童が主体的に関わるため、このような結果になったのではないかと考えられる。



一方、つらかった内容に関しては、図21に示すとおり、前回調査との順位相関が有意に認められ ($P<0.05$)、つらかった内容の上位は前回調査時と同様、活動の大変さや友人関係、健康上の問題であることがわかる。



また、「つらかったときにしたこと」をたずねたところ、図22に示すとおり、前回調査との順位相関は認められなかった。しかしながら、特徴的なことは、前回調査時は6位であった「がまんした」が今回、2位になっており、誰にも相談せずに、その場を乗り越えた児童が増えたと考えられる。



・家に帰りたと思った日

図23は、「5泊6日間に、家に帰りたと思ったか」をたずねた結果である。図に示すとおり、前回調査時と比較すると、帰宅したいと思った児童の割合は増加しているが、2日目に割合が減少し、その後、増加していく傾向は変わらなかった。

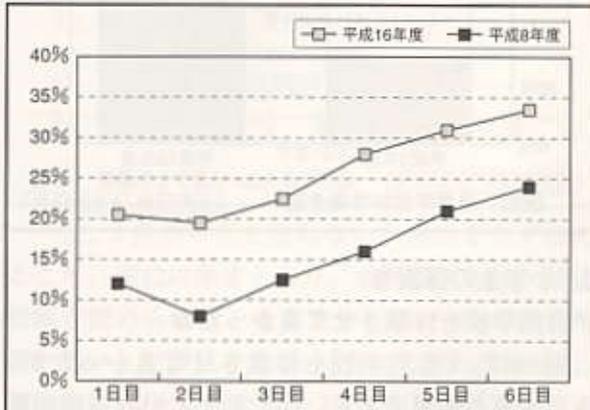


図23 帰宅したいと思った児童の割合 *: $P<0.05$ **: $P<0.01$

また、「帰りたくなった理由」をたずねたところ、図24に示すとおり、前回調査との順位相関が有意に認められた ($P<0.01$)。さらに、上位を占めた「テレビが見たい・ゲームがしたい」「家族に会いたい」は、自然学校に行きたくない理由の上位でもあり、現代のこどもの生活状況が反映された結果となっている。



図24 帰りたくなった理由 *: $P<0.05$ **: $P<0.01$

・自然学校をきっかけにやり始めたことで現在も続けていること

図25は、「自然学校をきっかけにやり始めたことで現在も続けていることがあるか」をたずねた結果である。図に示すとおり、「ある」と答えた児童は、前回調査時に比べ、23.5%と増えており ($P<0.01$)、続けている児童が多くなっていることがわかる。平成13年度からの自然学校実施要項で、「自然学校で身につけた力が学校や家庭、地域社会

での生活でも生かされるよう配慮すること。」と記されているが、このことがその後の学校現場で反映された結果ではないかと考えられる。

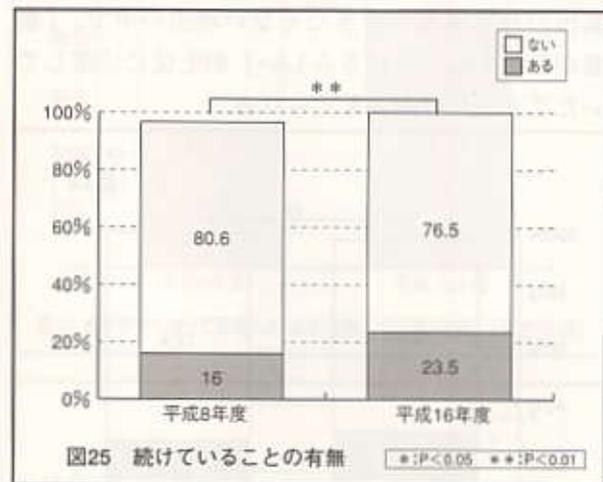


図25 続けていることの有無 *: $P<0.05$ **: $P<0.01$

また、その内容については、図26に示すとおり、前回調査との順位相関が有意に認められ ($P<0.05$)、家の手伝いや自分のことは自分ですといった基本的な生活態度として、日常に生かされていることがわかる。

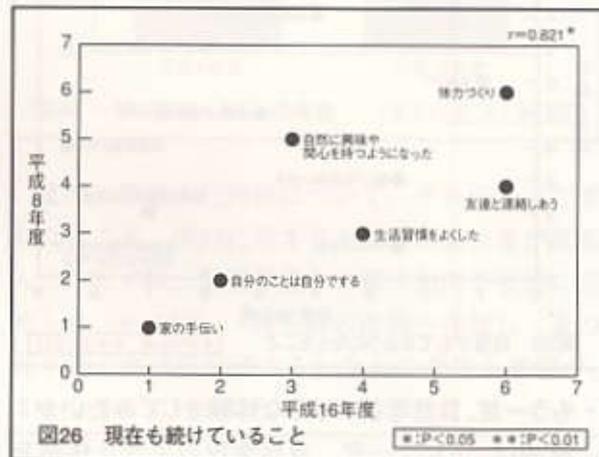
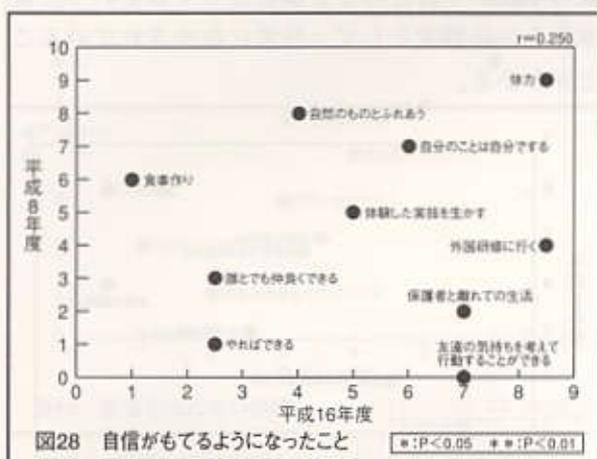
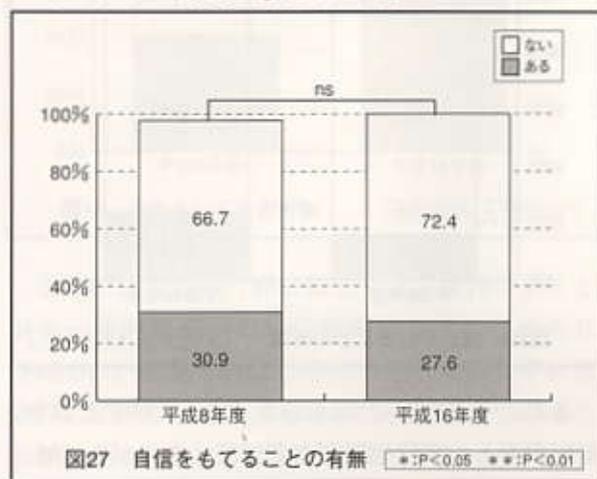


図26 現在も続けていること *: $P<0.05$ **: $P<0.01$

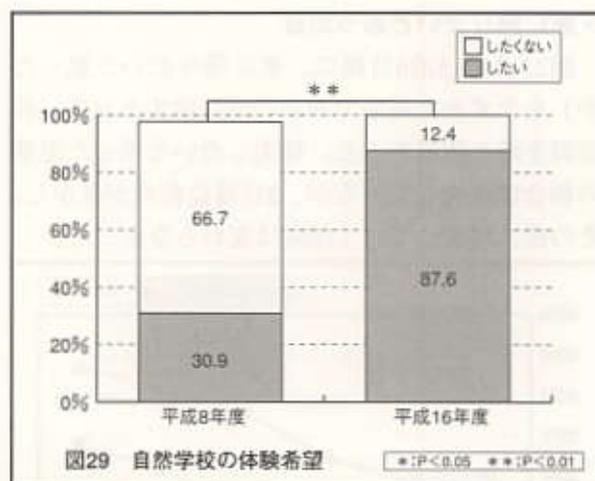
・自信が持てるようになったことの有無

図27、「自然学校を体験して、何か自信が持てるようになったことがあるか」をたずねた結果である。前回調査と比べ、27.6%と、若干、減少傾向にあるが、有意な差は認められなかった。また、「自信を持てることがあった」と答えた児童にその内容をたずねたところ、図28に示すとおりとなり、前回調査との順位相関は認められなかった。順位が上がったものでは、「食事作り」、下がったものでは、「保護者と離れての生活」があり、これらが順位を崩したと考えられる。「食事作り」に関しては、プログラムの中で、従来は、一斉にカレーライスを作るといった内容が多かったが、

近年は、選択メニューが積極的に採用されるなどの改善があったための結果ではないかと考えられる。一方、「保護者と離れての生活」に関しては、前出の自然学校へ行きたくない理由の中で、「家庭から離れることがさみしい」が上位に位置していたこととの関連が考えられる。



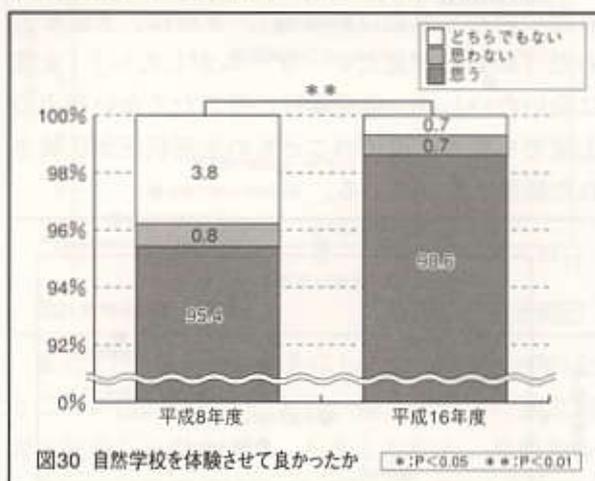
・もう一度、自然学校のような体験をしてみたいか？
 図29は、「もう一度、自然学校のような体験をしてみたいか」をたずねた結果である。図に示すとおり、「したい」と答えた児童は、前回調査時に比べ、87.6%と増えており（ $P<0.01$ ）、希望する児童が多くなっていることがわかる。この設問は、自然学校全般に関する評価であり、近年の自然学校が児童から高い評価を受けていることがわかる。



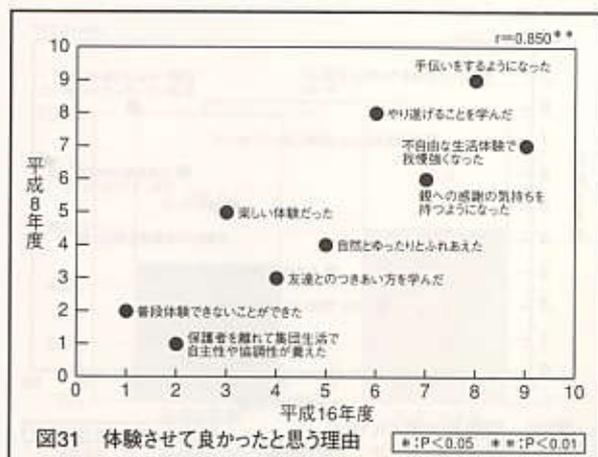
2. 小学生の保護者

・自然学校を体験させて良かったか

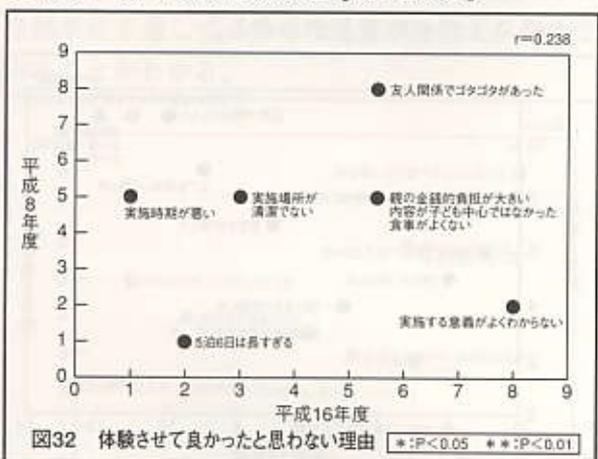
図30は、「自然学校を体験させて良かったか」をたずねた結果である。図に示すとおり、前回調査に比べ、「良かったと思う」割合が98.6%と大きく増加しており（ $P<0.01$ ）、自然学校を肯定的にとらえている保護者が多いことがわかる。



また、「思う」と答えた保護者にその理由をたずねたところ、図31に示すとおり、前回調査との順位相関が有意に認められ（ $P<0.01$ ）、普段できない体験ができたことや保護者と離れた集団生活で自主性や協調性が養えたことが、自然学校を体験させて良かったと思う理由のようである。

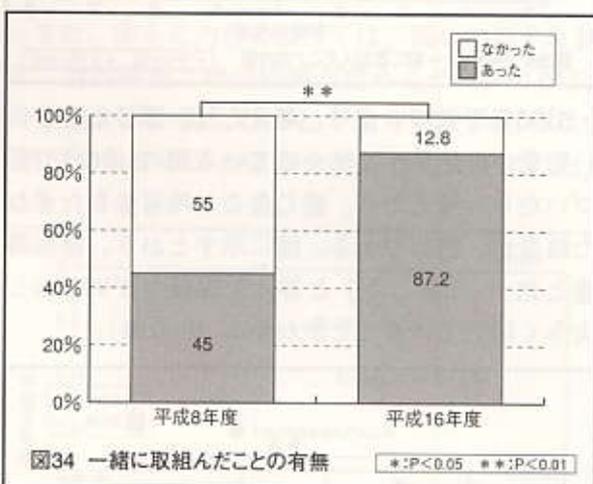
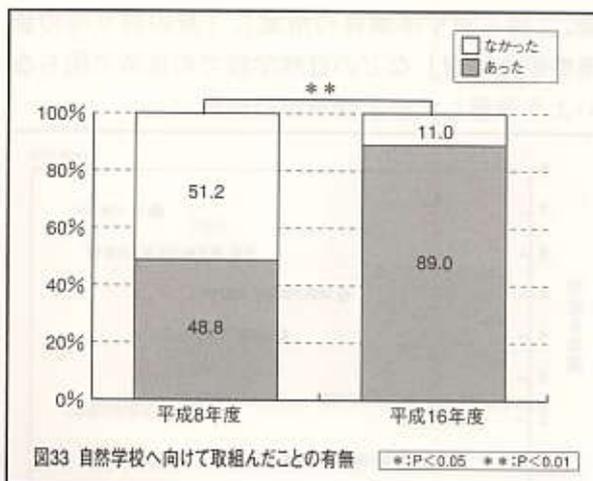


一方、「良かったと思わない」理由をたずねたところ、図32に示すとおり、前回調査とは、順位相関が認められず、今年度の回答では、「実施時期が悪い」が順位を上げ、「良いと思わなかった」理由の第1位となった。一方、「実施する意義がよくわからない」は、前回調査と比べ、大きく順位が下がり、自然学校の意義は、概ね保護者に理解されているのではないかと考えられる。

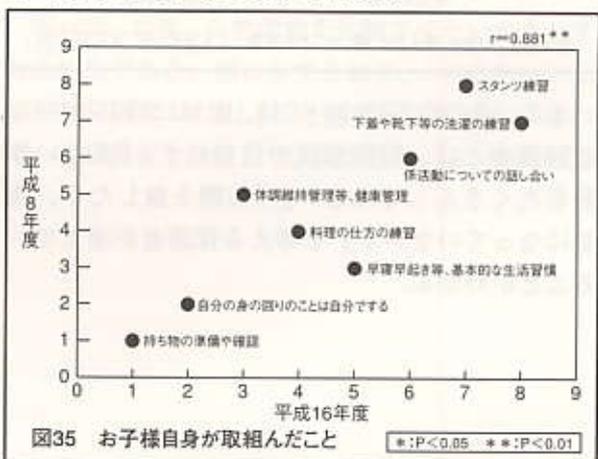


・自然学校に向けて取組んだこと

図33、34は、それぞれ、自然学校に向けて、児童自身が取組んだこと、保護者とともに一緒に取組んだことの有無をたずねた結果である。図に示すとおり、ともに前回調査に比べ、大きく増加しており ($P<0.01$)、自然学校へ向けての準備が、本年度は積極的になされたことがわかる。

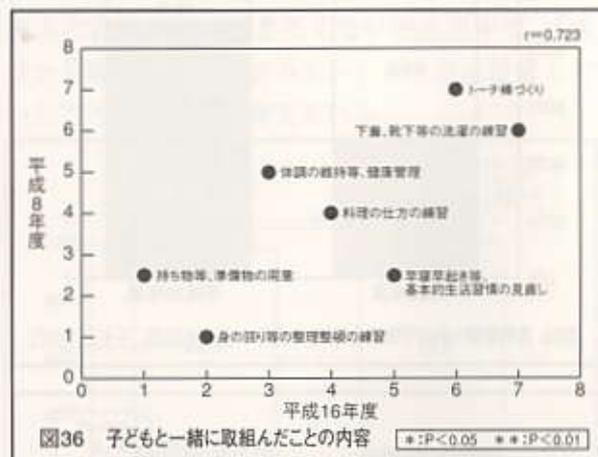


また、取組んだ内容について、それぞれ、たずねたところ、図35に示すとおり、児童自身が取組んだことでは、前回調査との順位相関が有意に認められ ($P<0.01$)、「持ち物の準備や確認」、「身の回りのことは自分でする」などの身近な準備が、よくなされていることがわかる。



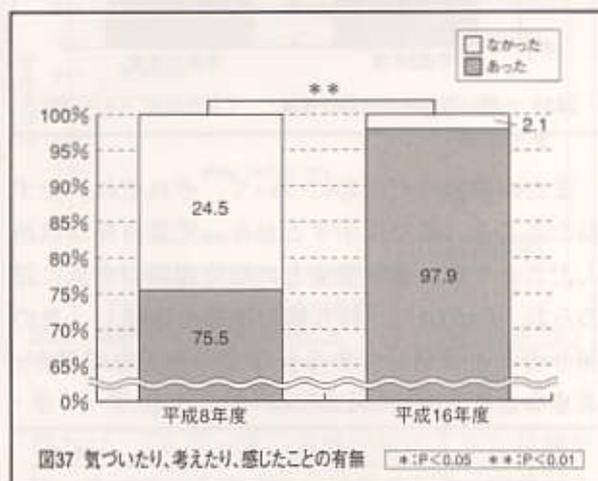
一方、保護者とともに取組んだことでは、図36に示すとおり、前回調査とは、順位相関が認められなかったものの、児童自身が取組んだことと同

様、「持ち物や準備物の用意」、「身の回り等の整理整頓の練習」などの自然学校での生活で困らないよう準備している様子がわかる。

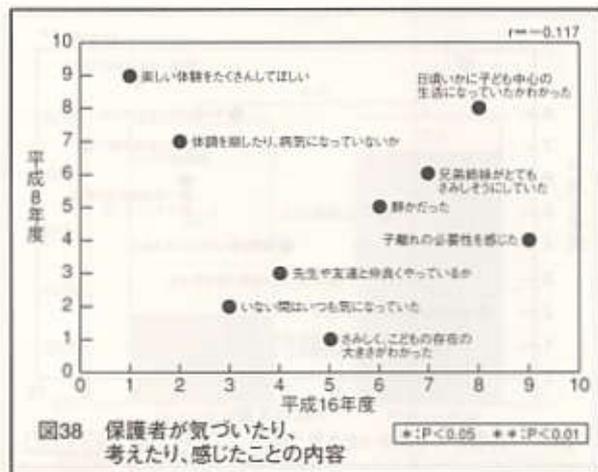


・5泊6日で気づいたり、考えたり、感じたこと

児童が自然学校に出かけている間の5泊6日で気づいたり、考えたり、感じたことの有無をたずねた結果が、図37である。図に示すとおり、前回調査と比べ、「あった」と答えた保護者が97.9%と大きく増えていることがわかる (P<0.01)。

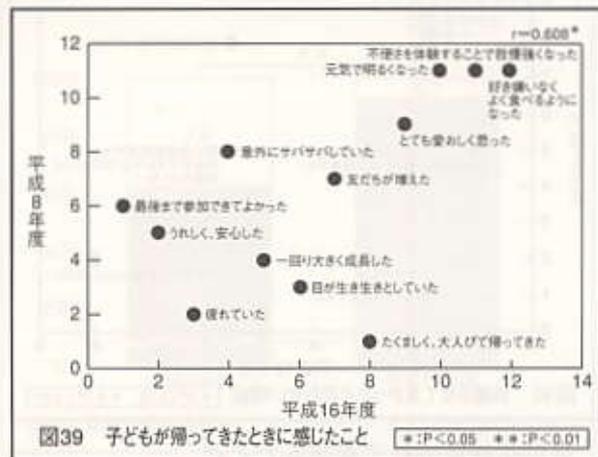


また、その内容については、図38に示すとおり、前回調査とは、順位相関が見られず、「楽しい体験をたくさんしてほしい」「体調を崩したり、病気になるっていないか」を考える保護者が増えていることがわかる。



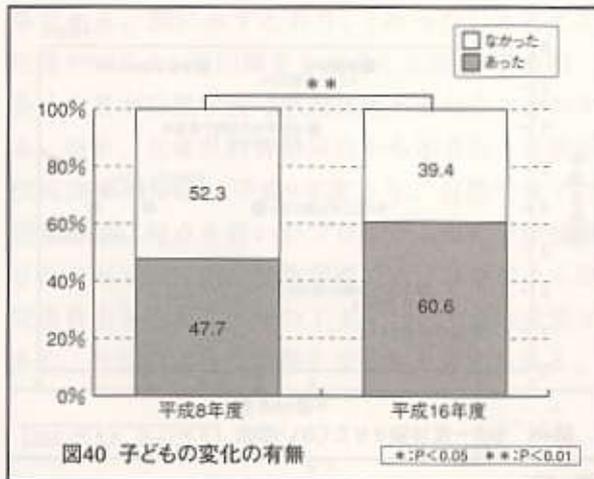
・子どもが帰ってきたとき、感じたこと

図39は、児童が自然学校から帰宅したとき、感じたことがあったかの有無をたずねた結果である。前回調査との順位相関は有意に認められた (P<0.05)。しかしながら、上位層では、ばらつきが見られ、前回調査に比べ、「最後まで参加できてよかった」、「うれしく、安心した」などの感情が上位に上がったことがわかる。

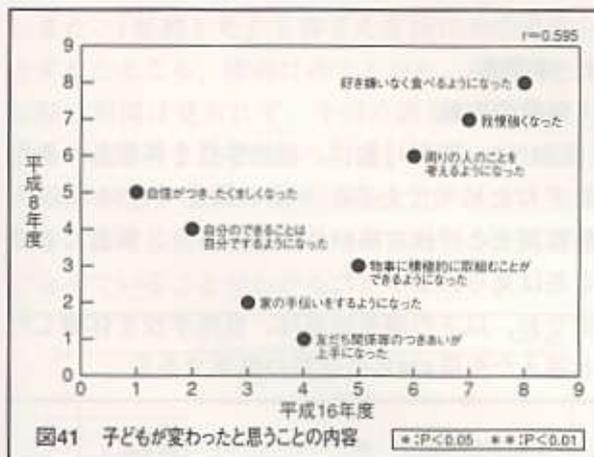


・自然学校がきっかけで、子どもが変わったと思うこと

図40は、自然学校をきっかけに、子どもが変わったことがあったかをたずねた結果である。図に示すとおり、前回調査に比べ、本年度では、60.6%と増加しており (P<0.01)、自然学校をきっかけに変化した児童が多くなったことがわかる。

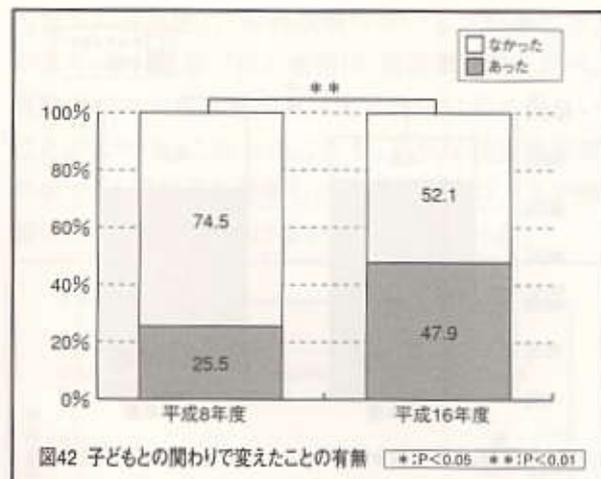


その内容は、図41に示すとおり、前回調査とは、順位相関が認められなかったものの、「自信がつき、たくましくなった」「自分のできることは自分であるようになった」の順位が大きく上昇したことを除けば、ほぼ直線関係にあることがわかる。そのため、「家の手伝いをするようになった」「友だち関係のつきあいが上手くなった」に関しては、自然学校を通して、多くの児童が変化する項目であることがわかる。

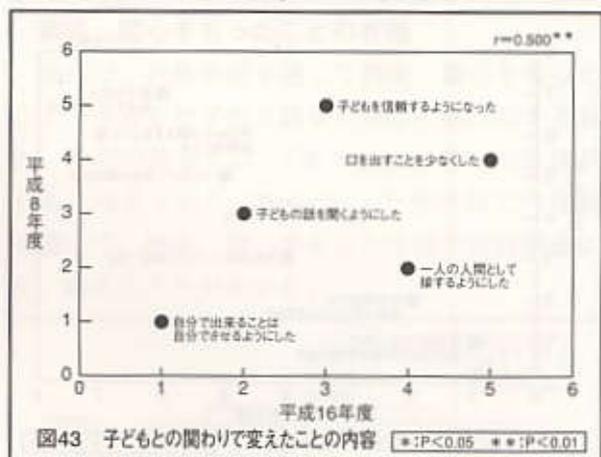


・自然学校をきっかけに子どもとの関わりで変えたこと

図42は、自然学校をきっかけに子どもとの関わりで変えたことの有無をたずねた結果である。図に示すとおり、「あった」と答えた保護者が47.9%と増え (P<0.01)、自然学校が子どもとの関わりを変えるきっかけになっていることがわかる。

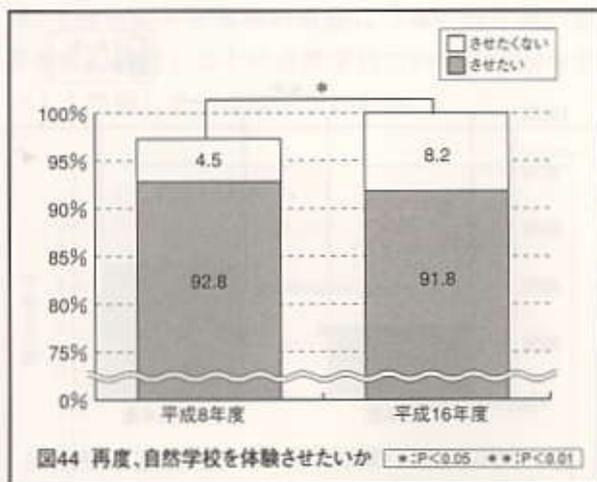


また、変えた内容に関しては、図43に示すとおり、前回調査と順位相関が認められ (P<0.01)、両年度とも、変えたことで最も多かったのは、「自分で出来ることは自分でさせるようにした」であったことがわかる。

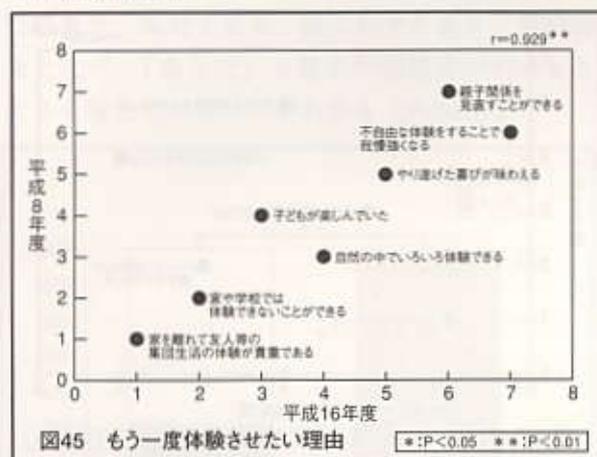


・再度、自然学校を子どもに体験させることについて

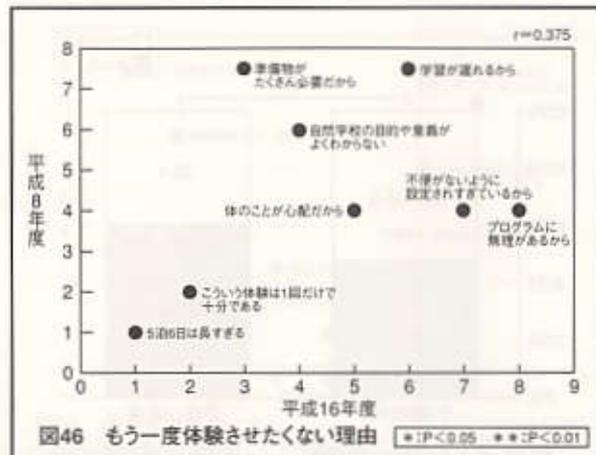
図44は、再度、自然学校を体験させたいかをたずねた結果である。図に示すとおり、「させたい」と答えた保護者は、91.8%と割合としては高いものの、前回調査と比較して、減少している (P<0.05)。



そして、その理由をたずねたところ、させたい理由に関しては、図45に示すとおり、前回調査と順位相関が認められ ($P<0.01$)、両年度を通して、自然学校が保護者に同様の認識で理解されていることがわかる。



一方、させたくない理由に関しては、図46に示すとおり、前回調査との間に有意な順位相関は認められず、「準備物がたくさん必要だから」が前回調査から上昇していることが今回の特徴となっている。このことは、「便利さ」や「共働き」などの現代の社会状況を反映しての結果ではないかと推察される。また、「プログラムに無理があるから」が下位に下がっており、現在行われている自然学校が選択プログラムなどを採用し、児童主体で行われていることが保護者にも周知されていることがわかる。



第2部

自然学校体験後の影響について

～中学生、高校生のその後を平成8年度の調査と比較して～

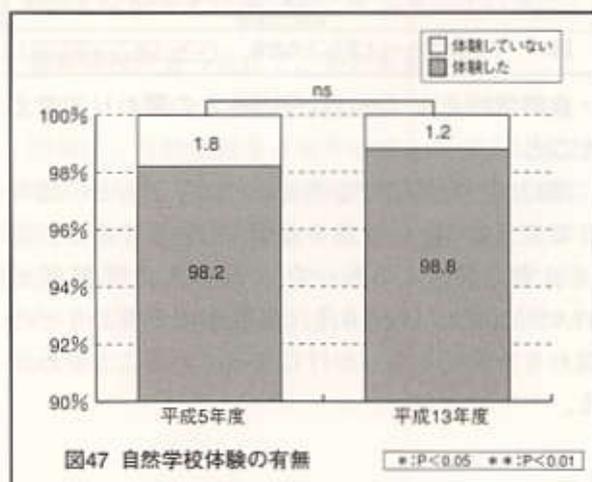
自然学校体験後、3年あるいは6年経過した中学生・高校生が、平成8年度当時と比べ、どのような印象を自然学校に持っているかを知ることによって、自然学校を充実させるための継続的な取り組みの成果がどのような形で現れているかを評価した。

1. 中学生

・体験の有無

図47は、調査対象に、自然学校を体験したかをたずねた結果である。今回の調査でも98.8%と、前回調査と同様に高い体験率であり、両者に有意な差は見られなかった。

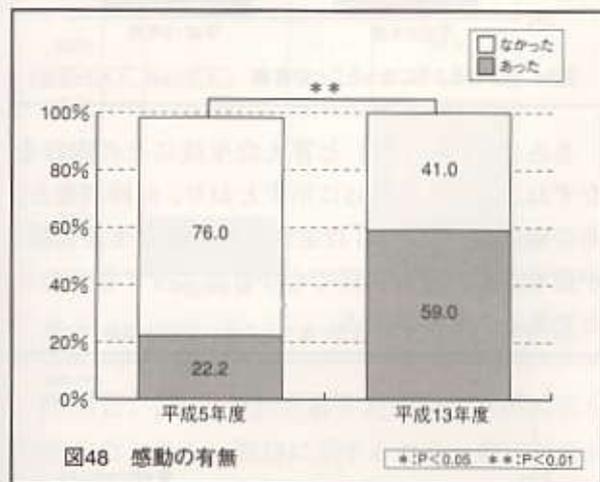
※なお、以下の調査結果は、自然学校を体験したと答えた生徒424名の回答の結果である。



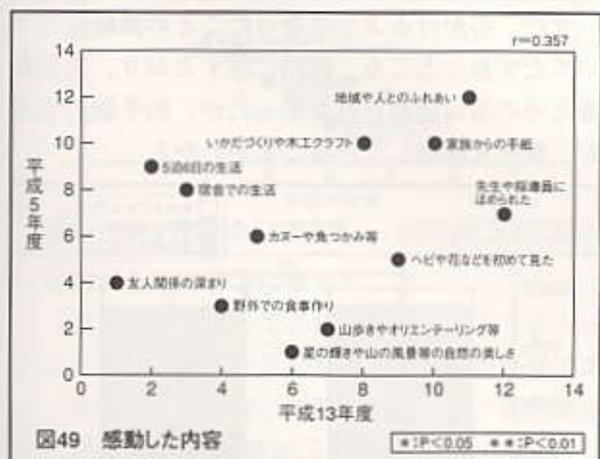
・感動の有無について

図48は、自然学校での感動の有無をたずねた結

果である。図に示すとおり、「あった」と答えた生徒が59%と、前回調査を大きく上回り($P<0.01$)、多くの者が自然学校で感動体験を得たことがわかる。毎年、兵庫県教育委員会から示される自然学校実施要項では、平成9年度より、自然学校での感動体験に視点を置いたプログラムづくりが強調されており、南但馬自然学校では、プログラム研究委員会を設置し、その工夫を行ってきた背景があり、今回のような結果となったと考えられる。

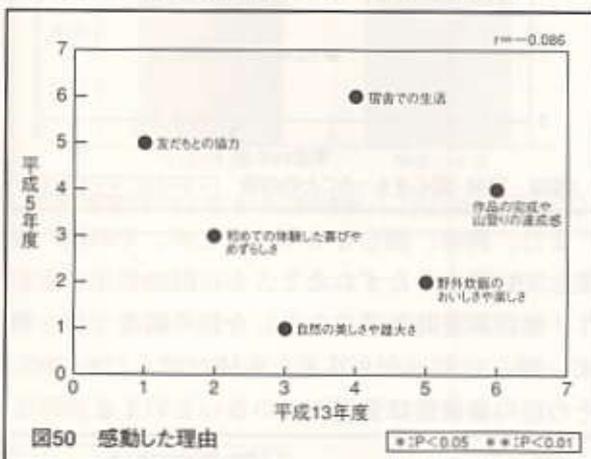


また、「感動した」と答えた生徒にその内容をたずねたところ、図49に示すとおり、前回調査との順位相関は見られず、今回の調査では、「友人関係の深まり」「5泊6日の生活」「宿舎での生活」が順位を上げており、前回調査と比べ、友人関係の思い出や長期滞在型の生活が感動を与える要因になっていることがわかる。



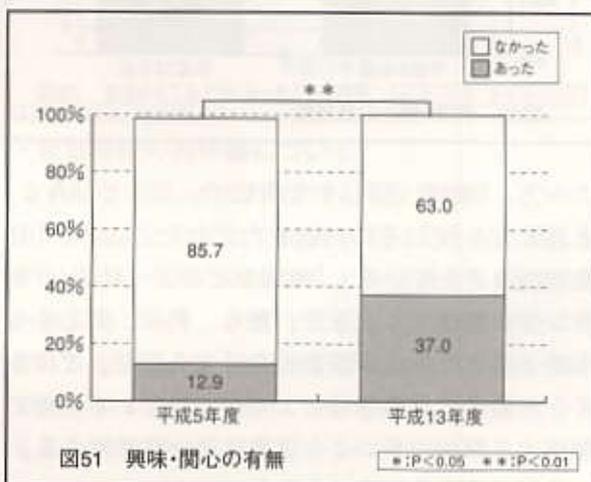
さらに、その理由をたずねたところ、図50に示すとおり、前回調査との順位相関は見られず、今回の調査では、「友だちとの協力」が順位を上げており、自然学校では、友人関係への印象が強かったと思われる。一方、順位を下げたものでは、「作品の完成や

山登りの達成感」、「野外炊事のおいしさや楽しさ」があり、単に活動で得た感情は、前回調査時と比べ、自然学校で大きな感動を与える理由になり得ないことがわかる。これらのことも、自然学校実施要項の中で、人間関係を強調したプログラムづくりが強調されているためではないかと考えられる。

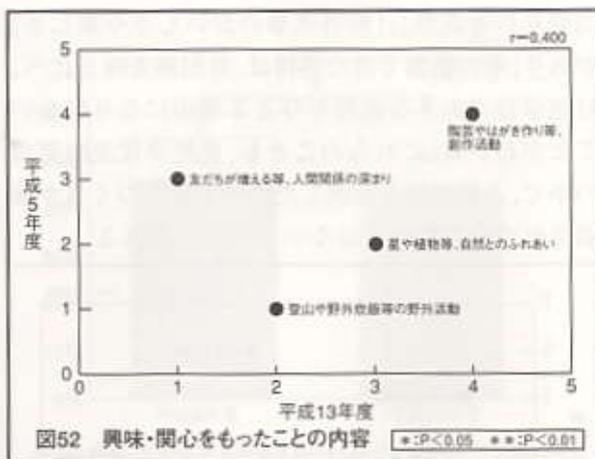


・興味、関心をもったことの有無

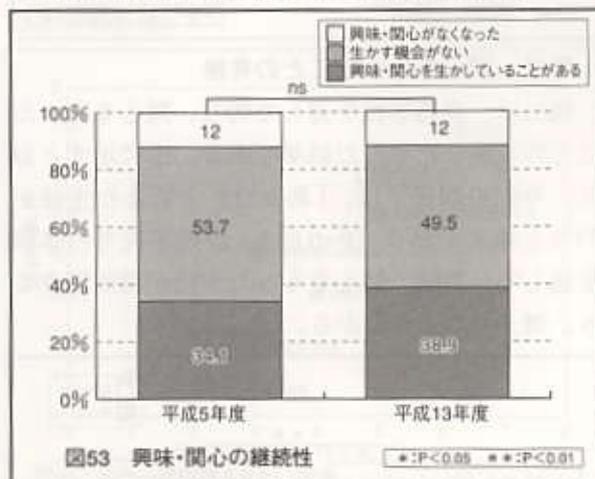
図51は、自然学校を通して興味、関心をもったことの有無をたずねた結果である。図に示すとおり、今回の調査では、「あった」と答えた生徒が37%と増えており($P<0.01$)、自然学校での体験を通して、興味、関心をもった生徒が前回調査より、増えたことがわかる。



さらに、興味、関心をもった生徒にその内容をたずねたところ、図52に示すとおり、前回調査との順位相関は見られず、今回の調査では、「友人が増える等、人間関係の深まり」が順位を上げていることが目立つ。前問の「感動について」と同様、自然学校の体験を通じた人とのつながりが、前回調査時よりも、近年のプログラムの中で強調されているためではないかと考えられる。



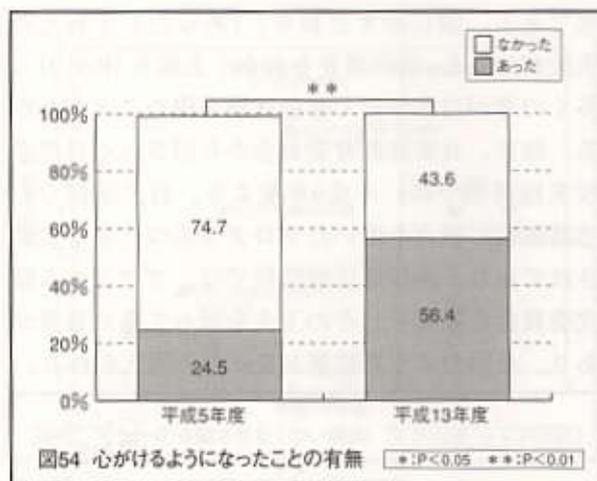
また、興味、関心をもったことが、その後、継続しているかをたずねたところ、図53に示すとおり、前回調査時と差はなく、今回の調査では、興味、関心をもったと答えた生徒が増えたものの、その後の継続性は変化していないといえる。



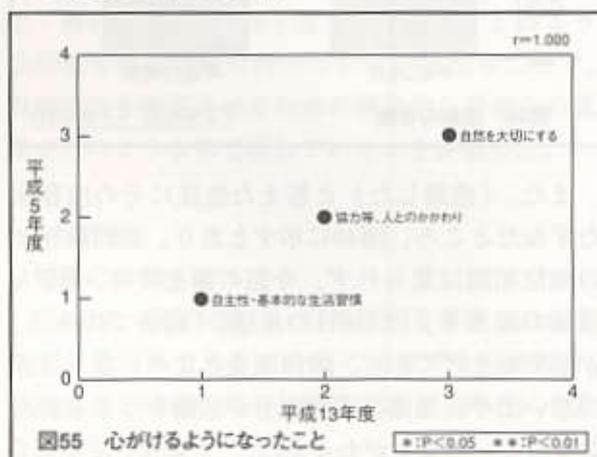
一方、「興味、関心を生かしていることがある」と答えた生徒にその内容をたずねたところ、「自然環境を考えている」「植物などをよく見る」「キャンプに参加する」など、最も、興味、関心をもったと答えた生徒が多かった「友人関係」ではなく、一般的に自然学校でよく行われている活動に関係する事柄が多いことは興味深い結果である。

・心がけるようになったこと

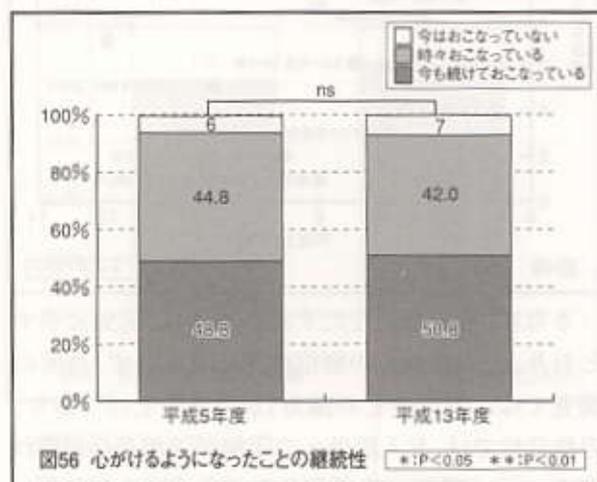
図54は、自然学校の生活を通して、心がけるようになったことがあるかをたずねた結果である。図に示すとおり、「あった」と答えた生徒は、56.4%と前回調査より有意に増えている (P<0.01)。



さらに、「あった」と答えた生徒にその内容をたずねたところ、図55に示すとおり、前回調査と、その順位は一致し、「自主性・基本的な生活習慣」が最も、その後の生活で心がけるようになったことであることがわかる。

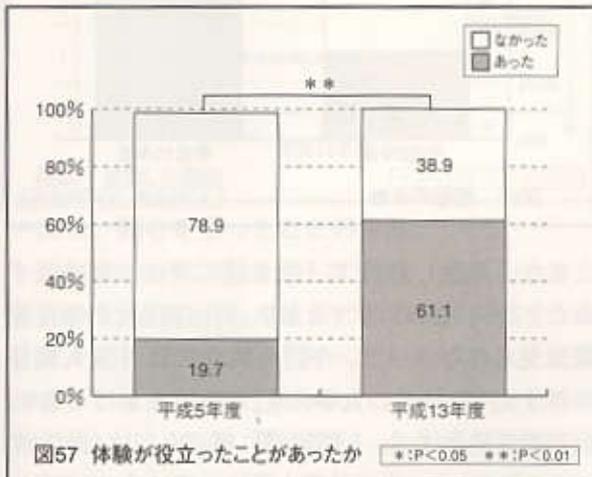


また、心がけるようになったことの継続性についてたずねたところ、図56に示すとおり、前回調査とその差は認められなかったが、約半数の生徒が、現在も継続していることがわかる。

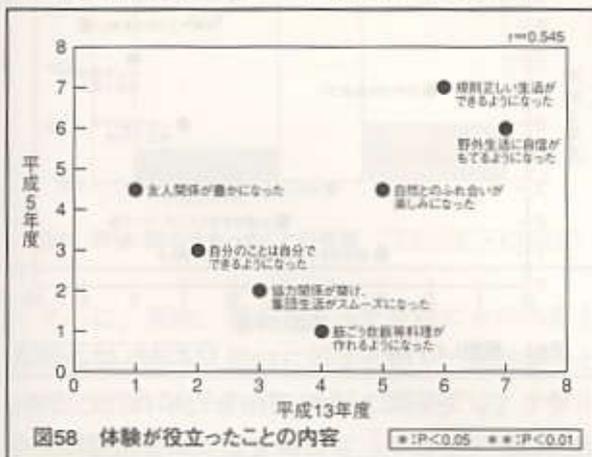


・体験が役立ったこと

図57は、「今までに、自然学校での体験が役に立ったことがあったか」をたずねた結果である。図に示すとおり、「あった」と答えた生徒は、61.1%と前回調査に比べ、有意に増加している($P<0.01$)。

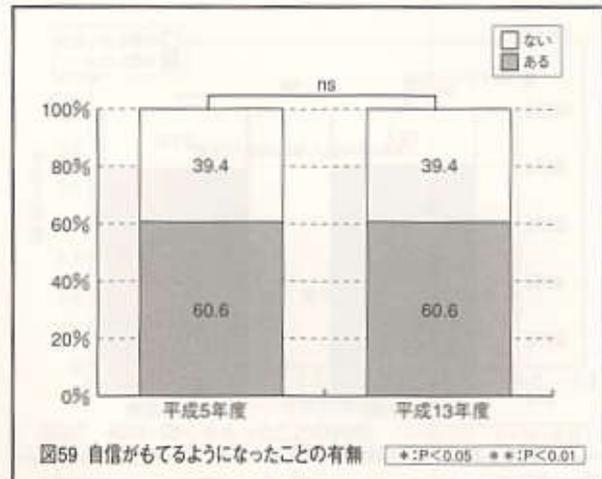


さらに、「あった」と答えた生徒にその内容をたずねたところ、図58に示すとおり、前回調査とは順位相関が認められなかった。ここでも、前回調査と比べ、「友人関係が豊かになった」と答えた生徒が増えていることが特徴的であった。

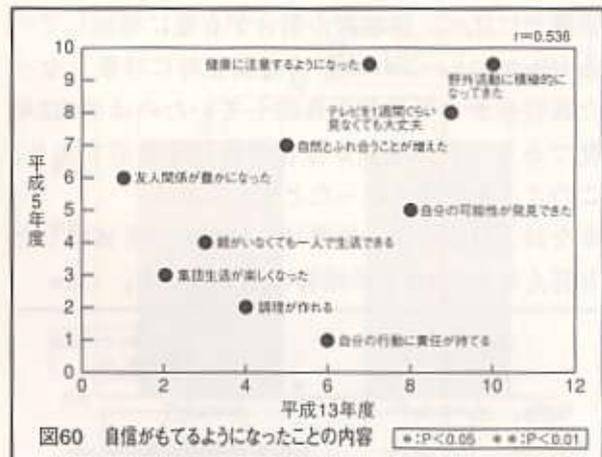


・自信がもてるようになったこと

「自然学校を終えて、自信をもてるようになったことがありますか」とたずねた結果が図59である。図に示すとおり、今回の調査でも、前回調査と同様に約6割の生徒が「ある」と答えている。

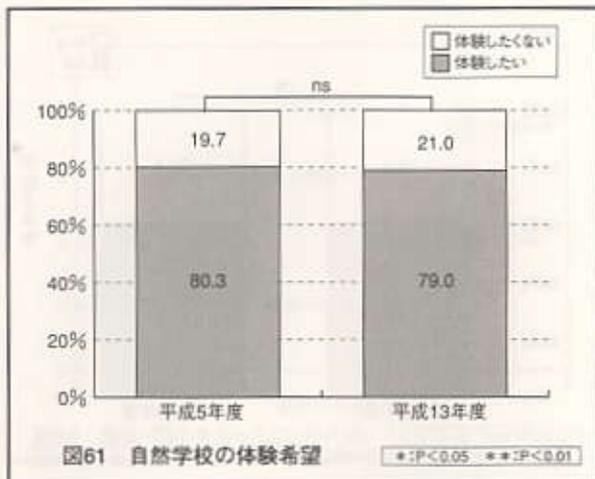


また、その内容をたずねたところ、図60に示すとおり、前回調査とは有意な順位相関は認められなかった。ここでも、「友人関係が豊かになった」が順位を上げていることが特徴的である。



・自然学校の再体験について

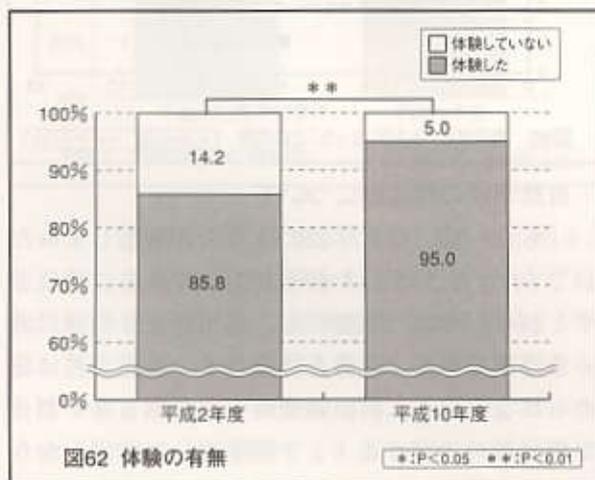
「もう一度、自然学校のような体験をしてみたいですか」とたずねた結果が図61である。図に示すとおり、今回の調査でも、前回調査と同様に高い希望率であり、両者を比較して、有意な差は認められなかった。前回調査時も、今回も高い割合で再体験の希望があり、3年経過した中学生からも高い満足度が得られていることがわかる。



2. 高校生

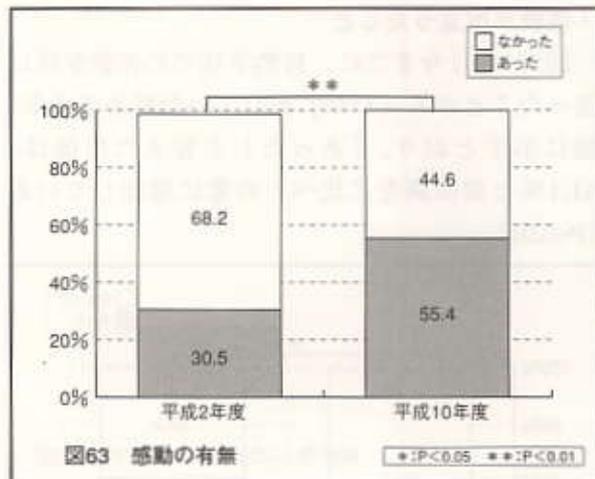
・体験の有無

図62は、調査対象に、自然学校を体験したかをたずねた結果である。今回の調査では95%と、前回調査に比べ、体験者の割合が有意に増加している ($P<0.01$)。これは、前回調査時に対象となった高校生が自然学校を体験していたのは平成2年度であり、自然学校が全校実施に至る前であり、このような結果になったと考えられる。なお、以下の調査結果は、自然学校を体験したと答えた生徒419名の回答の結果である。

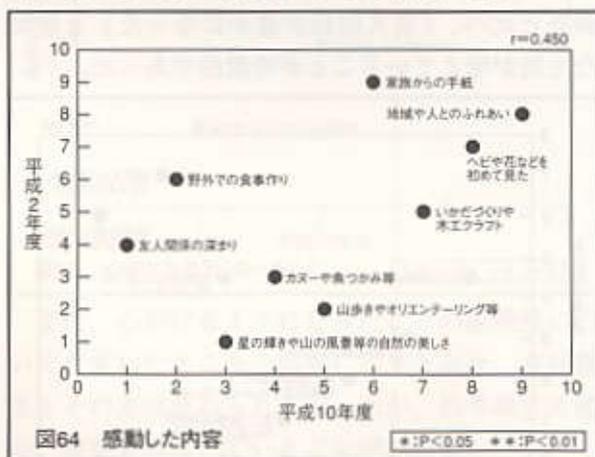


・感動の有無について

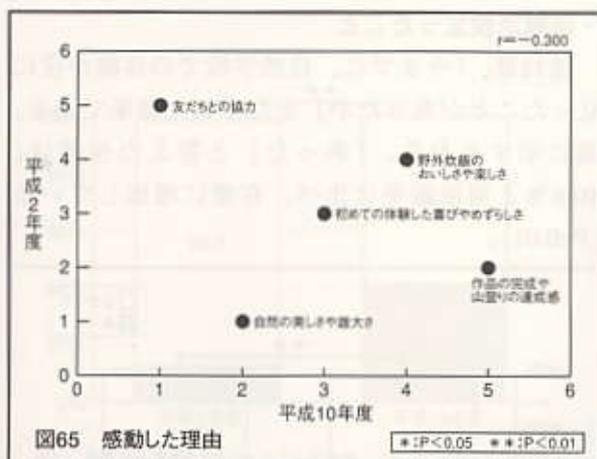
図63は、自然学校での感動の有無をたずねた結果である。図に示すとおり、「あった」と答えた生徒が55.4%と、前回調査を大きく上回り ($P<0.01$)、多くの者が自然学校で感動体験を得たことがわかる。中学生と同様に、平成9年度から自然学校実施要項の中で、感動体験に視点を置いたプログラムづくりが強調されており、そのため、今回のような結果となったのではないかと考えられる。



また、「感動した」と答えた生徒にその内容をたずねたところ、図64に示すとおり、前回調査との順位相関は見られなかった。今回の調査では、「友人関係の深まり」「野外での食事作り」が順位を上げており、前回調査時と比べ、人間関係に視点を向けたプログラムの作り方や、野外炊事も単に一齐にカレーライスを作るといった形ではなく、選択メニューという形で工夫を持たせているため、これらが感動を与える要因になっているのではないかと考えられる。

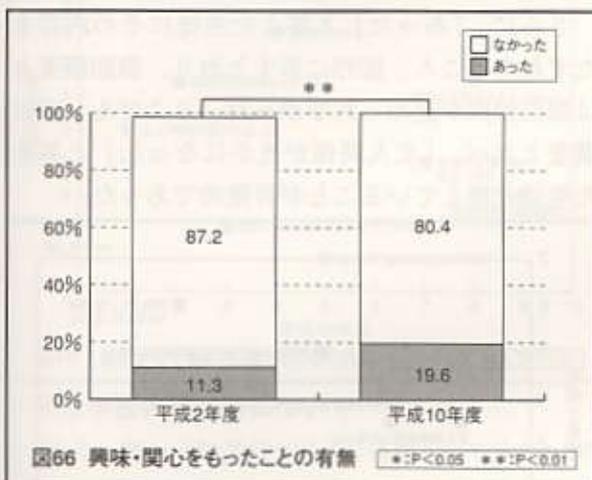


そして、さらに、その理由をたずねたところ、図65に示すとおり、前回調査との順位相関は見られず、今回の調査では、中学生と同様、「友だちとの協力」が順位を上げており、自然学校では、友人関係への印象が強かったと思われる。一方、順位を下げたものでは、これも中学生と同様、「作品の完成や山登りの達成感」があり、単に活動で得た感情は、前回調査時と比べ、自然学校で大きな感動を与える理由になり得ないことがわかる。これらのことも、自然学校実施要項の中で、人間関係を強調したプログラムづくりが強調されているためではないかと考えられる。

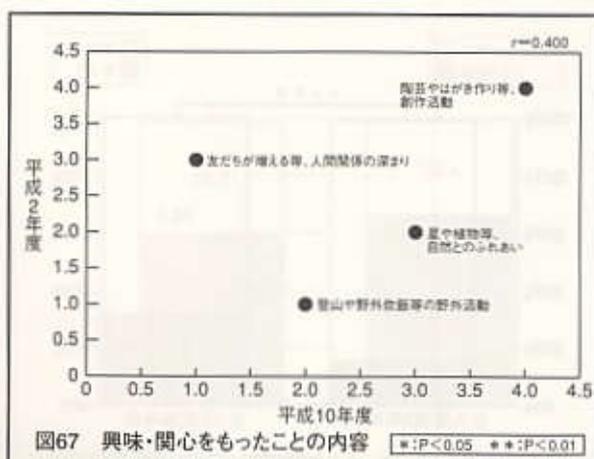


・興味、関心をもったことの有無

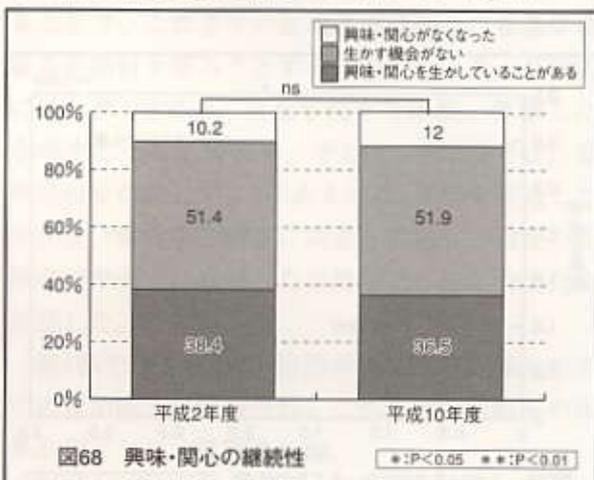
図66は、自然学校を通して興味、関心をもったことの有無をたずねた結果である。図に示すとおり、今回の調査では、「あった」と答えた生徒が19.6%と増えており（ $P < 0.01$ ）、自然学校での体験を通して、興味、関心をもった生徒が前回調査より、増えたことがわかる。



さらに、興味、関心をもった生徒にその内容をたずねたところ、図67に示すとおり、前回調査との順位相関は見られず、今回の調査では、中学生と同様、「友人が増える等、人間関係の深まり」が順位を上げていることが目立つ。前問の「感動について」と同様、自然学校の体験を通じた人とのつながりが、前回調査時よりも、近年のプログラムの中で強調されているためではないかと考えられる。



また、興味、関心をもったことが、その後、継続しているかをたずねたところ、図68に示すとおり、前回調査時と差はなく、今回の調査では、興味、関心をもったと答えた生徒が増えたものの、その後の継続性は変化していないといえる。



一方、「興味、関心を生かしていることがある」と答えた生徒にその内容をたずねたところ、「野外活動などの団体に入っている」「キャンプに行っている」などの回答が多く、「興味、関心をもったことがある」と答えた生徒が最も多かった「友人関係」ではなく、一般的に自然学校でよく行われている活動に関係する事柄が多いことは、中学生と同様、興味深い結果である。

・心がけるようになったこと

図69は、自然学校の生活を通して、心がけるようになったことがあるかをたずねた結果である。図に示すとおり、「あった」と答えた生徒は、31.5%と前回調査より有意に増えている（ $P < 0.01$ ）。

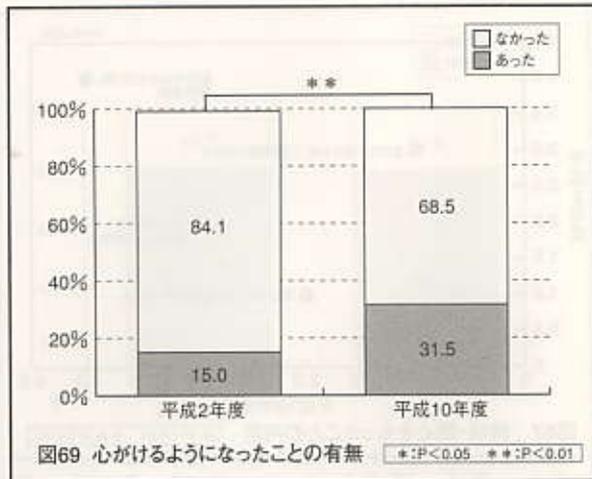


図69 心がけるようになったことの有無 * : P<0.05 ** : P<0.01

さらに、「あった」と答えた生徒にその内容をたずねたところ、図70に示すとおり、前回調査と、その順位は一致し、「自主性・基本的な生活習慣」が最も、その後の生活で心がけるようになったことであることがわかる。

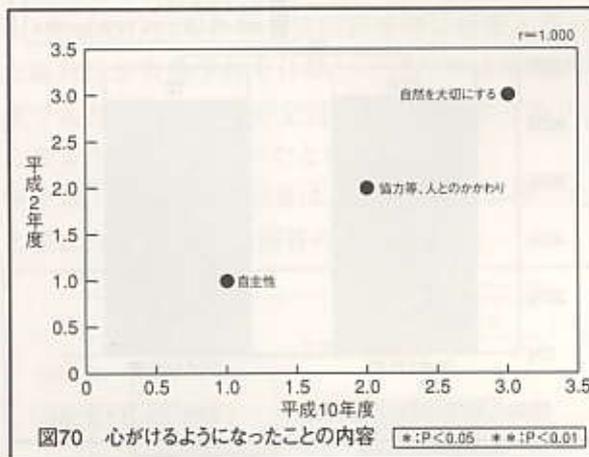


図70 心がけるようになったことの内容 * : P<0.05 ** : P<0.01

また、心がけるようになったことの継続性についてたずねたところ、図71に示すとおり、前回調査時に比べ、61.9%と、その継続性が増加していることがわかる (P<0.01)。

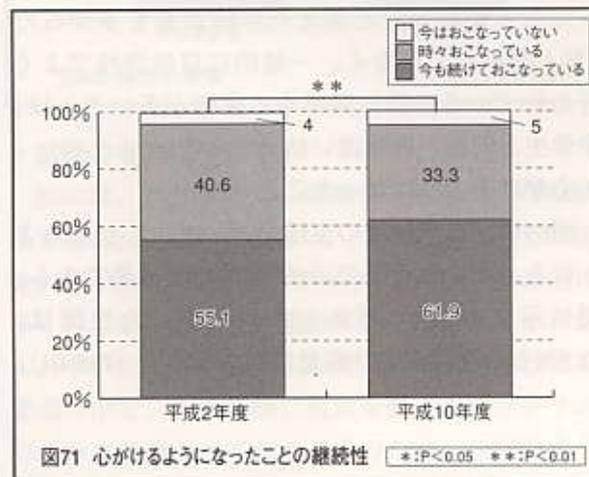


図71 心がけるようになったことの継続性 * : P<0.05 ** : P<0.01

・体験が役立ったこと

図72は、「今までに、自然学校での体験が役に立ったことがあったか」をたずねた結果である。図に示すとおり、「あった」と答えた生徒は、40.6%と前回調査に比べ、有意に増加している (P<0.01)。

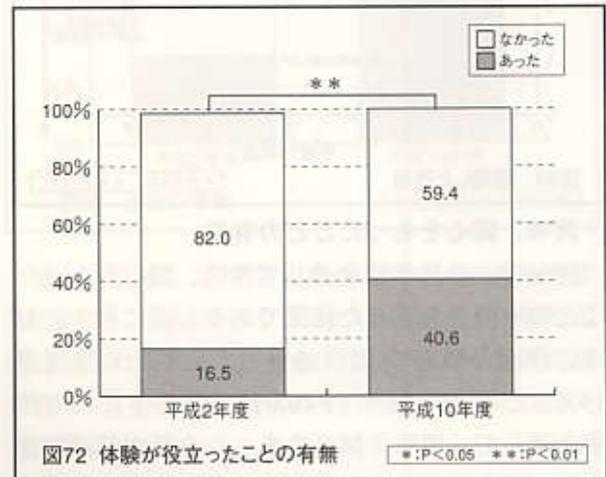


図72 体験が役立ったことの有無 * : P<0.05 ** : P<0.01

さらに、「あった」と答えた生徒にその内容をたずねたところ、図73に示すとおり、前回調査とは順位相関が認められなかった。ここでも、前回調査と比べ、「友人関係が豊かになった」と答えた生徒が増えていることが特徴的であった。

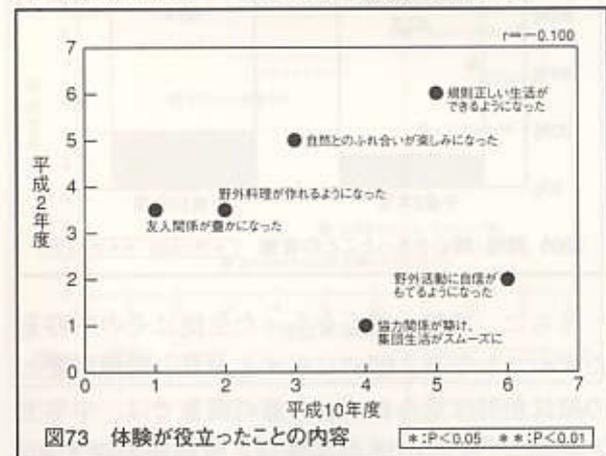
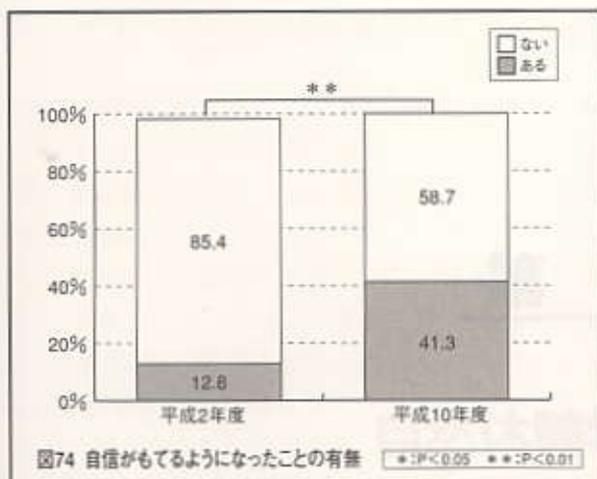


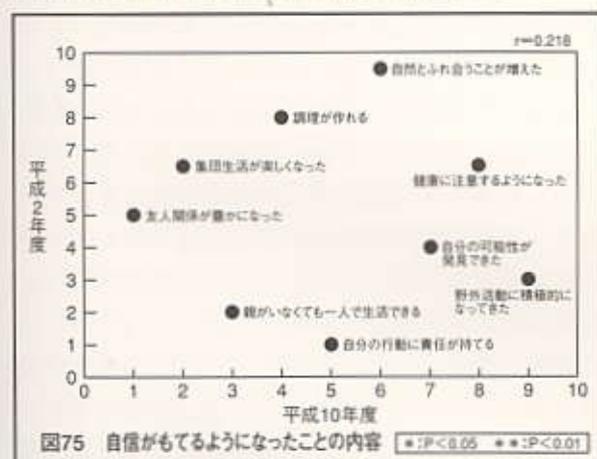
図73 体験が役立ったことの内容 * : P<0.05 ** : P<0.01

・自信がもてるようになったこと

「自然学校を終えて、自信をもてるようになったことがありますか」とたずねた結果が図74である。図に示すとおり、今回の調査では、「ある」と答えた生徒が41.3%と有意に増加していることがわかる (P<0.01)。

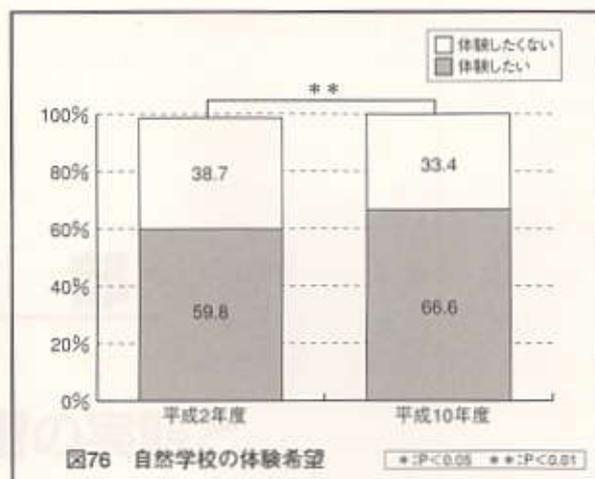


また、その内容をたずねたところ、図75に示すとおり、前回調査とは有意な順位相関は認められなかった。ここでも、「友人関係が豊かになった」が順位を上げていることが特徴的である。



・自然学校の再体験について

「もう一度、自然学校のような体験をしてみたいですか」とたずねた結果が図76である。図に示すとおり、今回の調査では、前回調査と比べ、「体験したい」と答えた生徒が66.6%と有意に増え ($P<0.01$)、自然学校体験後、6年を経過した高校生からも高い満足度が得られていることがわかる。



【ま と め】

本報は、平成8年度に「自然学校が与えた影響についての調査研究」で行われた調査を、8年経過した16年度に実施し、その当時の結果と比較することで、これまでの取組みの成果や、今後の取組みの指針を探ろうとするものであった。具体的には、第1部では、自然学校を今年度、体験した小学生とその保護者を、そして、第2部では、自然学校を体験して、3年あるいは、6年を経過した中学生、高校生を対象に調査を実施し、現在の自然学校や過去に経験した自然学校の経年的変化を評価した。

第1部では、8年前の自然学校に比べ、多くの点での質的向上が認められ、これまでの取組みの成果が形として、確認された。

また、第2部においても、その経年的変化は、8年前に調査された結果よりも、明らかに自然学校実施要項を反映した形となり、各現場でのプログラムが、望ましい形で展開されていることが確認できた。

以上のように、このような点において、完成期を迎えている自然学校ではあるが、子どもたちを取り巻く環境は日々、変化しているのが現状である。今後も継続的に自然学校の質的維持向上を図る努力が必要であるといえる。

【引用文献】

1. 「自然学校が与えた影響についての調査研究」平成8年度南但馬自然学校研究紀要

第 II 部

自然体験学習の実態と 教育的効果についての調査研究

びわこ成蹊スポーツ大学教授 中野 友博

関西国際大学教授 高見 彰

兵庫県立南但馬自然学校指導主事 西村 一範

兵庫県立南但馬自然学校指導主事 芦田 哲

自然体験学習の実態と教育的効果についての調査研究

【はじめに】

1996年7月に公表された第15期中央教育審議会による第一次答申「21世紀を展望した我が国の教育のあり方について」では、これからの社会を「変化の激しい、先行き不透明な、厳しい時代」ととらえ、子どもたちに「生きる力」を育むことの必要性が強調され、体験活動の機会を広げていくことが打ち出された。これを受け全国的に学校教育の中で自然体験学習を取り入れる自治体が増えている。

本県の自然学校は、昭和63年に実施されてから本年度で17年を経過しようとしているが、この間、関係各位の努力により「兵庫県自然学校」は多方面から注目をあび、評価される事業に育った。県内小学校5年生にとっては心待ちにする学校行事となり、保護者の間にも一定の評価が得られるようになった。

事業開始以来、自然学校における教育実践やさまざまな研究成果の蓄積から、自然学校での体験が日常の学校、家庭生活の中では得ることができない満足感、充実感を得ることができ、児童に何らかの変化をもたらすことが明らかにされてきた。しかし、こうした知見は自然学校を経験した同一学校の児童の反応を分析したものや自然学校前後での児童の態度変容を調べた研究からのものが多い。

本研究は、兵庫県自然学校と他都県の自然体験学習を比較検討することで兵庫県自然学校の特徴を浮き彫りにすることをねらいとした。兵庫県自然学校は全県下の公立小学校5年生が5泊6日の日程で実施し、専用施設をもち運営補助金が交付され、指導補助員のサポート体制があるなど、かなり特徴的な取組みとなっている。そこで、兵庫県自然学校の取組みを条件の異なる他府県の自然体験学習と比較し、その結果に効果的な意義が認められれば、兵庫県自然学校の進むべき道を考えるうえでの指針となると考えた。

【方 法】

1. 調査方法、調査内容

調査対象には、兵庫県自然学校と兵庫県外の小学校の自然体験学習を比較検討するため、平成16

年度に教育課程に位置付け、小学5年生あるいは6年生で宿泊を伴った自然体験学習に取り組んでいる兵庫県外（岡山県、広島県、鳥取県、滋賀県、福井県、東京都）の小学校10校の協力を得ることができた。また、兵庫県外の小学校で実施されている自然体験学習の時期が8月から10月となっているため、兵庫県自然学校も同時期の9月、10月に兵庫県立南但馬自然学校（以下南但馬自然学校）で自然学校を行った兵庫県下の小学校4校の協力を得た。

以上の結果、合計14小学校の自然体験学習に参加した任意の1クラスの児童、計438名を調査対象とした。

調査内容は、実態を把握するために自然体験学習担当者、担当教諭が記入する「自然体験学習の実態についてのアンケート」と自然体験学習による児童の態度変容をみるために、「子どもの体験活動に関するアンケート」を作成した。そのアンケートについては国立オリンピック記念青少年総合センターが事業参加者の変容測定のために作成した25項目からなる「少年版野外体験事業質問紙尺度<児童生徒用>」を用いた。

調査時期は、「自然体験学習の実態についてのアンケート」は自然体験学習実施後1週間以内に担当者に記入していただき、また参加児童に対しては「子どもの体験活動に関するアンケート」と「少年版野外体験事業質問紙尺度<児童生徒用>」を自然体験学習開始1週間前に、そして自然体験学習終了後1週間以内に再度「少年版野外体験事業質問紙尺度<児童生徒用>」を実施した。児童へのアンケートは、対象となる児童全員が集合して一度に実施した。調査依頼校へは、全ての調査用紙を事前に郵送し、調査用紙への記入終了後、南但馬自然学校へ郵送回収した。

回収数について12校から有効な回答を得た。兵庫県内3校、兵庫県外9校である。また、有効回答児童数は359名であった。

表1 調査対象小学校と児童数

県	小学校数	児童数
兵庫県	3	97
岡山県	1	16
広島県	1	21
鳥取県	1	28
滋賀県	2	73
福井県	2	68
東京都	2	56
合計	12	359

2. 分析方法

「自然体験学習の実態についてのアンケート」は、質問項目を単純集計し、分析に用いた。

「子どもの体験活動に関するアンケート」は生活体験項目6項目、自然体験項目9項目からなっている。各項目は「何度もある」に1点、「時々ある」2点、「あまりない」3点、「全くない」4点を与え、生活体験、自然体験それぞれについて合計点数を算出した。生活体験の合計点数は6点から24点になるので、合計得点6点から14点を生活体験上位群、16点から24点を生活体験下位群とした。また自然体験は合計得点が9点から36点になる。合計点数が9点から22点を自然体験上位群、23点から36点を自然体験下位群とした。

児童の態度変容に対する項目では、「きわめてあてはまる」に4点、「かなりあてはまる」3点、「わりとあてはまる」2点、「すこしあてはまる」1点、「あてはまらない」0点を与え得点化して、それぞれの平均値をもとに事前調査と事後調査間で対応のあるt検定を実施した。

t検定とは事前と事後の平均値の差が意味のあるもの（有意なもの）かどうかを検定するもので、平均値の差が誤差の範囲の変化であるのか、それ以上の変化であるのかを確かめる統計手段である。その差が誤差の範囲を超える大きい効果と認められた場合にはt値と有意水準（***は0.1%水準、**は1%水準、*は5%水準で有意）を表に記し、誤差の範囲であり変化の見られなかった項目は「n.s.」（有意ではないの意味）と記した。「5%水準で有意である」とは、本当は「有意ではない」のに「有意である」として間違える確立が5%以下（20回に1回以下）であることを表す。

因子分析は、項目同士の関連の深いものから、

その背後に潜む「因子」を抽出する統計的手法である。項目の背後にある共通の「何か」を問題にするために、項目レベルより安定した結果が得られる。

今回の分析については、統計パッケージSPSSを用いて統計処理した。

【結果・考察】

1. 調査対象小学校の自然体験学習の属性

1. 1. 小学校の環境について

今回調査対象とした小学校について、立地環境と規模について図1、図2に表した。

立地については比較的 naturally 囲まれた立地の小学校6校、比較的 natural が少ない立地の小学校3校、兵庫県内の小学校は3校とも比較的 natural が少ない立地であった。

また、規模（5年生のクラス数）は5、6年生統合学級1校に、1学級が4校、2学級以上が7校であった。



図1 小学校の立地

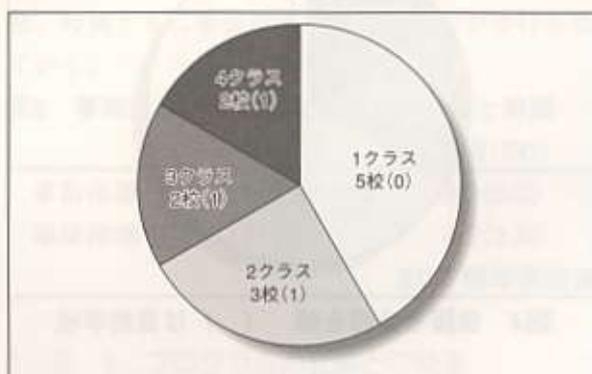


図2 小学校の規模

（5年生クラスの数）（ ）は自然学校

1. 2. 宿泊日数について

自然体験学習を教育課程に位置づけ、実施している今回の小学校では、1泊2日から6泊7日までとなっている。図3が宿泊日数のグラフである。5泊6日の日数で行っているのは兵庫県自然学校の3校だけであった。なお、6泊7日の自然体験学習を実

施しているのは東京都の小学校であった。

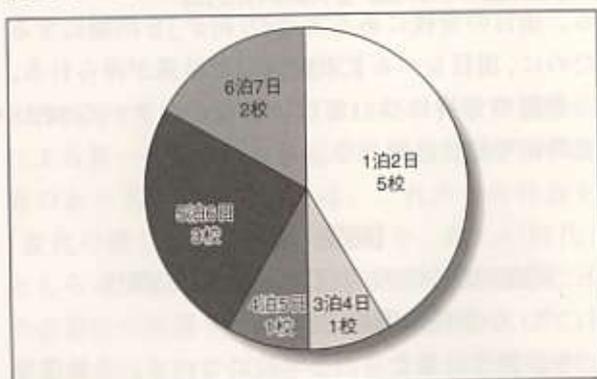


図3 宿泊日数

長期の自然体験学習であった。



図5 宿泊形態 () は自然学校

1. 3. 保護者負担金額について

保護者負担金額について図4に表した。1泊あたりの金額に修正したものである。利用している施設がどの小学校も公立、国立の青少年教育施設のために負担金額は高額になっていない。今回の調査対象小学校の平均負担金額は1泊あたり2,689円であった。特に兵庫県自然学校はどの小学校も1,800円から2,000円となっている。昨年度の兵庫県自然学校全体の保護者負担金額は1,700円となっており他都県よりも低額になっている。

利用する施設が民間施設であったり、自然体験学習が補助金等の対象になっていなければ保護者の負担が増加することが考えられる。

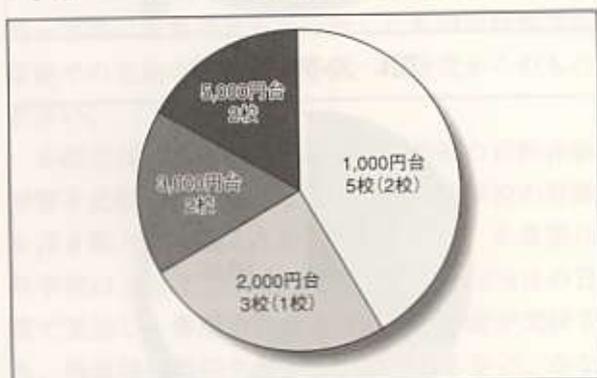


図4 保護者負担金額 () は自然学校

1. 4. 宿泊形態について

自然体験学習での宿泊形態について図5に表した。全ての小学校は複数の施設を移動せずにか所の施設に滞在している。また期間中は全日程を宿舎で宿泊する小学校が8校で、4校はテント泊を入れている。ただし、1泊2日や3泊4日の自然体験学習では全日程を宿舎泊で計画しており、テント泊をしている4校はいずれも、5泊6日、6泊7日の

1. 5. 自然体験学習、実施の枠組みについて

実施されている教育課程の枠組みについて表したものが、図6である。どの小学校も教科学習、総合的な学習の時間、学校行事と様々な枠組みで実施していることが分かる。

兵庫県自然学校についても同様に各小学校によって取組みの枠が異なっていた。兵庫県教育委員会では自然学校と他の体験活動や総合的な学習の時間等の関連を考えた上で、教育活動に適切に位置付け、特別活動での実施を提唱している。本校もこのことをふまえ各校に指導しているが、年間の授業時数確保の関係から総合的な学習の時間や学校行事、教科学習の枠組みでの実施となっていることが考えられる。

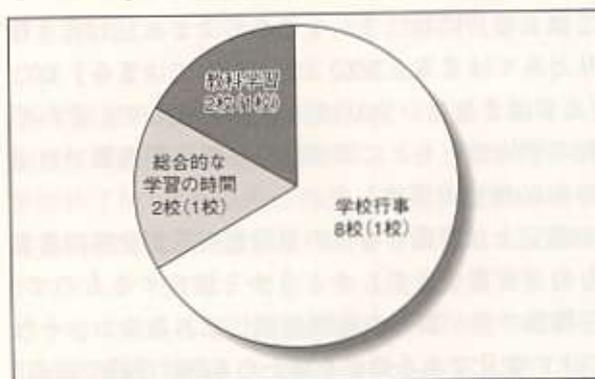


図6 実施の枠組み () は自然学校

1. 6. プログラムのねらい、立案について

プログラム立案において最も重要視したねらい、立案時の主導者について図7、図8に表した。

最も重要視したねらいとして「他者と自分とのより良い関係を知る」、つまり仲間づくりや指導者とのつながりを大切にし、協調性を重視してプログラムを立案する小学校が最も多かった(6校)。

次に多く上げられたのが「自然と自分とのより良い関係を知る」であり、自然に親しむ、自然を知る活動であったり、自然に対する感受性を深めるなど環境教育につながる活動を重視する小学校が4校（うち自然学校2校）。自主・自立性や忍耐力、責任感など「新しい自分の発見」を重視するプログラム立案を行なった小学校が2校であった（うち自然学校1校）。

兵庫県自然学校のねらいの一つになっている「地域とのふれあい」や生きる力の内容の一つである「健康や体力の増進」、あるいは自然体験活動技術の習得、基本的な生活訓練をプログラム立案の際に重視する小学校は見られなかった。

プログラム立案に際して、教員主導型が7校（うち自然学校2校）、児童が参画している小学校が5校（自然学校1校）となっている。施設職員がプログラム立案の中心になっている小学校はない。

児童がプログラム立案に参画している場合の重視するねらいは、「自然との関係（2校）」「他者との関係（2校）」「新しい自分（1校）」の3つのねらい全てになっている。兵庫県自然学校では2校がプログラム立案に児童が参画している。

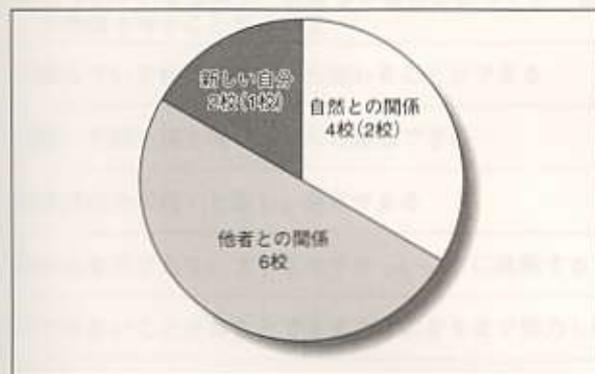


図7 重要視したねらい () は自然学校



図8 プログラム立案 () は自然学校

1. 7. 指導体制について

指導はあくまで各学校の自然学校での学習のねらいを実現するために、指導体制を明確にすることが大事である。そこで、指導体制について図9に表した。教員が主となって指導を行なう小学校が9校と最も多く、1校は施設職員が主となって指導を行なっている。

兵庫県自然学校2校では他都県の小学校ではないボランティアスタッフ（指導員、指導補助員）が学校の自然学校のねらいにそって指導を行なっていることが分かる。

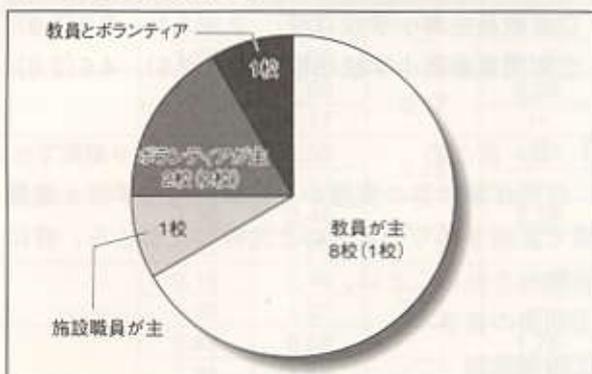


図9 指導体制 () は自然学校

1. 8. 事前指導、事後指導について

事前指導、事後指導の日数、時間を表2に表した。時間については45分を1時間として換算した。

事前指導は全ての小学校で行なわれていた。事後指導は1校を除く小学校で行なわれている。日数、時間ともに事前指導に多くの労力がかけられている。

表2 事前指導、事後指導に要した日数と時間

	日数(SD)	時間(SD)
事前指導	5.9(2.8)	8.0(5.0)
事後指導	2.8(2.3)	4.2(3.6)

SD：標準偏差値

1. 8. 1. プログラムの立案との関連

事前指導、事後指導の日数、時間について、プログラム立案の主導によって比較した表が、表3、表4である。

プログラム立案に児童が参画している小学校では、教員主導の小学校よりも事前指導、事後指導にかけられる日数、時間は多い。プログラム立案では事前指導の中で児童が自然体験学習に関わる時間や機会が確保されていることとともに、事後

においてまとめや振り返りにも時間がかけられていることが分かる。

表3 事前指導に要した日数と時間

(立案主導による比較)		
事前指導	日数(SD)	時間(SD)
立案教員主導小学校(7校)	5.1(2.0)	7.3(3.9)
立案児童参画小学校(5校)	7.0(3.7)	9.0(6.6)

表4 事後指導に要した日数と時間

(立案主導による比較)		
事後指導	日数(SD)	時間(SD)
立案教員主導小学校(7校)	2.3(2.1)	3.9(3.9)
立案児童参画小学校(5校)	3.6(2.5)	4.6(3.6)

1. 9. まとめ

自然体験学習の実態から兵庫県自然学校と他都県で実施されているものと比較したところ、特に特徴とされることは、

- ①期間の長さ
- ②指導体制
- ③保護者負担金額 である。

他県の多くの小学校が1泊2日から2泊3日で実施しているのに比べ、兵庫県自然学校は5泊6日と長期間で実施している。また、実施日数が長期であるにも関わらず保護者負担金額は高額になっていない。指導体制では指導員や指導補助員といったボランティアスタッフを組み入れている点であった。

プログラム立案に係る児童の参画や事前、事後指導の日数や時間からは兵庫県自然学校とその他の学校では大きな差は見られなかった。(表5、表6)

表5 事前指導の日数と時間

(兵庫県自然学校との比較)		
事前指導	日数(SD)	時間(SD)
兵庫県自然学校(3校)	5.3(1.5)	7.7(5.5)
県外小学校(9校)	6.1(3.2)	8.1(5.2)

表6 事後指導の日数と時間

(兵庫県自然学校との比較)		
事後指導	日数(SD)	時間(SD)
兵庫県自然学校	3.0(1.7)	3.7(1.5)
県外小学校	2.8(2.5)	4.3(4.2)

2. 児童の態度変容

2. 1. 事前、事後の平均値の比較

表7 自然体験学習前後の児童の態度変容

項目名 全体 (n=359)	事前調査	事後調査	事後-事前	
	Mean SD	Mean SD	平均値の 増加分	t値
(1)班長やリーダーを積極的に引き受けすることができる	1.60	1.81	0.21	3.97
	1.31	1.31		...
(2)歩いている途中で疲れても、もんくを言わないで歩きとおすことができる	2.20	2.42	0.22	3.63
	1.19	1.10		...
(3)だれとでも気軽に話ができる	2.40	2.55	0.16	2.64
	1.29	1.22		..
(4)決められた時間に遅刻しないで行くことができる	2.56	2.54	—	-0.36
	1.18	1.09		N. S.
(5)食べていい木の実や草を知っている	1.06	1.09	—	0.39
	1.05	1.09		N. S.
(6)みんなの意見をまとめることが得意である	1.32	1.50	0.17	3.38
	1.16	1.17		..
(7)友達よりうまくできないことがあっても、いやになったりせず頑張りとおすことができる	2.08	2.33	0.25	4.24
	1.19	1.14		...
(8)新しい友達を簡単に作れる	2.36	2.48	0.13	2.28
	1.28	1.27		.
(9)朝、人に起こされなくても、自分で起きることができる	2.15	2.46	0.31	4.69
	1.30	1.27		...
(10)自然と人間の生活には深いかかわりがあると思う	2.48	2.58	—	1.76
	1.21	1.19		N. S.
(11)何かやろうとすると、リーダーになってやる方だ	1.50	1.63	0.12	2.41
	1.34	1.33		.
(12)工作している途中で、失敗した部分があっても、自分で工夫して作品を完成させることができる	2.40	2.40	—	-0.04
	1.20	1.23		N. S.
(13)遊んでいる仲間にあとから加わることができる	2.60	2.67	—	1.33
	1.19	1.17		N. S.
(14)脱いだ服や持ち物はきちんと整理できる	2.47	2.70	0.23	3.63
	1.20	1.18		...
(15)自然の中に行くと新しい発見がある	2.38	2.56	0.18	2.7
	1.25	1.15		..
(16)みんなのできないようなむずかしいことに挑戦する方だ	2.14	2.07	—	-1.16
	1.34	1.30		N. S.
(17)できないことがあるとできるようにするまで努力し続ける方だ	2.14	2.13	—	-0.29
	1.18	1.24		N. S.
(18)必要な時に、ありがとう、ごめんなさいが言える	2.65	2.78	0.13	2.72
	1.12	1.08		..
(19)暑い時や寒い時に自分で衣服を調整することができる	2.75	2.86	—	1.84
	1.19	1.19		N. S.
(20)自然の中の活動は気持ちがいい	2.94	2.90	—	-0.69
	1.16	1.08		N. S.
(21)困っている友だちを助けてあげることができる	2.39	2.40	—	0.22
	1.08	1.09		N. S.
(22)出かけるときには、何が必要なか自分で判断し、必要なものを持っていくことができる	2.60	2.64	—	0.8
	1.08	1.07		N. S.
(23)天候の変化が敏感に分かる	1.86	1.69	-0.16	-2.51
	1.23	1.20		.
(24)大人や年上の人に自分の考えを言える	1.82	1.89	—	1.08
	1.26	1.19		N. S.
(25)草花や自然の景色を見て感動することがある	2.03	1.99	—	-0.64
	1.37	1.33		N. S.

***p<.001 **p<.01 *p<.05 Mean:平均値 SD:標準偏差値

表7は、児童の自然体験学習前後の態度変容の結果である。項目ごとに事前調査、事後調査の平均値と標準偏差を示し、対応のあるt検定を行った。

全25項目のうち12項目で事前、事後で得点有意に変化している。11項目で高くなり、1項目で低くなった。事前から事後にかけて変容得点が高くなった項目を大きい順にあげると、項目(9)「朝、人に起こされなくても、自分で起きることができる」(0.31点増加)、項目(7)「友達よりうまくできないことがあっても、いやになったりせず頑張りとおすことができる」(0.25点増加)、項目(4)「脱いだ服や持ち物はきちんと整理できる」(0.23点増加)、項目(2)「歩いている途中で疲れても、もんくを言わないで歩きとおすことができる」(0.22点増加)、項目(1)「班長やリーダーを積極的に引き受けすることができる」(0.21点増加)、項目(6)「みんなの意見をまとめることが得意である」(0.17点増加)、項目(15)「自然の中に行くと新しい発見がある」(0.18点増加)、項目(3)「だれとでも気軽に話

ができる」(0.16点増加)、項目(18)「必要な時に、ありがとう、ごめんなさいが言える」(0.13点増加)、項目(11)「何かやろうとすると、リーダーになってやる方だ」(0.12点増加)、項目(8)「新しい友達を簡単に作れる」(0.13点増加)である。

項目(9)、項目(4)、項目(18)からは「自分で起きる」「必要な時に言える」「自分で整理できる」のものごとを自分で判断する能力が付き、項目(7)、項目(2)などからは「歩きとおす」「頑張りとおす」と自主性や主体性など自己概念の成長が見られる。また項目(1)、項目(6)からは「リーダーを引き受ける」「意見をまとめる」などリーダーシップも発揮できるようになっている。

事前から事後にかけて得点が低下した項目は1項目あり、項目(23)「天候の変化が敏感に分かる」で、天候の変化に気が付くことができなかつたか、あるいは自然体験学習期間中に天候の急変があったのではないかと考えられる。

項目	事前	事後	変化
1	1.2	1.4	0.2
2	1.1	1.3	0.2
3	1.0	1.2	0.2
4	1.1	1.3	0.2
5	1.0	1.1	0.1
6	1.1	1.3	0.2
7	1.0	1.2	0.2
8	1.0	1.1	0.1
9	1.1	1.4	0.3
10	1.0	1.1	0.1
11	1.0	1.2	0.2
12	1.0	1.1	0.1
13	1.0	1.1	0.1
14	1.0	1.1	0.1
15	1.0	1.2	0.2
16	1.0	1.1	0.1
17	1.0	1.1	0.1
18	1.0	1.1	0.1
19	1.0	1.1	0.1
20	1.0	1.1	0.1
21	1.0	1.1	0.1
22	1.0	1.1	0.1
23	1.1	1.0	-0.1
24	1.0	1.1	0.1
25	1.0	1.1	0.1

2. 2. 児童の態度変容に関する項目の因子分析

表8 自然体験学習評価項目の因子分析結果

因子名	項目名	F1	F2	F3	F4	
自己判断力・自己成長	(19)暑い時や寒い時に自分で衣服を調整することができる	0.67	0.12	0.17	0.13	
	(14)脱いだ服や持ち物はきちんと整理できる	0.61	0.08	0.14	0.10	
	(22)出かけるときには、何が必要なか自分で判断し、必要なものを持っていくことができる	0.59	0.15	0.20	0.18	
	(7)友達よりうまくできないことがあっても、いやになったりせず頑張りとおすことができる	0.51	0.37	0.24	0.22	
	(18)必要な時に、ありがとう、ごめんなさいと言える	0.50	0.30	0.18	0.18	
	(17)できないことがあるとできるようになるまで努力し続ける方だ	0.50	0.39	0.22	0.23	
	(4)決められた時間に遅刻しないで行くことができる	0.45	0.17	0.10	0.12	
	(9)朝、人に起こされなくても、自分で起きることができる	0.40	0.09	0.12	0.12	
	(2)歩いている途中で疲れても、もんくを言わないで歩きとおすことができる	0.40	0.22	0.16	0.08	
	(12)工作している途中で、失敗した部分があっても、自分で工夫して作品を完成させることができる	0.40	0.23	0.27	0.16	
	(21)困っている友だちを助けてあげることができる	0.40	0.40	0.34	0.29	
	(23)天候の変化が敏感に分かる	0.33	0.29	0.28	0.20	
対人関係スキル	(8)新しい友達を簡単に作れる	0.23	0.73	0.15	0.22	
	(3)だれとでも気軽に話ができる	0.18	0.68	0.15	0.22	
	(16)みんなのできないようなむずかしいことに挑戦する方だ	0.39	0.43	0.27	0.30	
	(13)遊んでいる仲間にあとから加わることができる	0.33	0.42	0.14	0.20	
	(24)大人や年上の人に自分の考えを言える	0.36	0.37	0.24	0.30	
自然への感性	(20)自然の中の活動は気持ちがいい	0.20	0.14	0.67	0.04	
	(15)自然の中に行くと新しい発見がある	0.19	0.16	0.64	0.07	
	(25)草花や自然の景色を見て感動することがある	0.18	0.07	0.61	0.23	
	(10)自然と人間の生活には深いかかわりがあると思う	0.17	0.14	0.57	0.20	
	(5)食べていい木の実や草を知っている	0.16	0.14	0.32	0.26	
リーダーシップ	(11)何かやろうとするとき、リーダーになってやる方だ	0.24	0.23	0.22	0.82	
	(1)班長やリーダーを積極的に引き受けることができる	0.24	0.29	0.17	0.67	
	(6)みんなの意見をまとめることが得意である	0.27	0.32	0.22	0.58	
因子寄与		3.717	2.629	2.524	2.313	
寄与率(%)		14.87	10.52	10.1	9.25	44.73

F：集計区分

調査項目25項目を、主因子法・バリマックス回転を用いて因子分析したところ、解釈可能な4因子が抽出された(表8)。

第1因子は、自分で様々な状況を判断し、自分で行動を決めていく自己判断能力や目標に向かって努力したり困難に出会ってもあきらめないなど忍耐力や努力に関するもので「自己判断・自己成長性」と命名した。

第2因子は、新しい友達を簡単に作れるや、誰とでも気軽に話ができるなどから「対人関係スキル」と命名した。

第3因子は、自然の中での活動に喜び、自然の中での新しい発見に感動するなど、また自然と人間の関係の理解などと自然意識や自然に対する感

情的態度を表すもので「自然への感性」と命名した。

第4因子は、リーダーになったり、引き受けたり、意見をまとめるのが得意と、リーダーシップに関するもので「リーダーシップ」と命名した。

このように、今回用いた25項目の尺度から「自己判断・自己成長性」「対人関係スキル」「自然への感性」「リーダーシップ」という4つの因子を抽出することができた。

2. 3. 因子別の下位項目の変化

表9 実施期間ごとの児童の態度変容

因子名	項目名	全体 t値	1泊2日 5校 n=169	3泊4日 1校 n=16	4泊5日 1校 n=20	6泊7日 2校 n=56	自然学校 3校 n=97
自己判断力・自己成長	(19)暑い時や寒い時に自分で衣服を調整することができる	1.84 N. S.				2.38 *	3 **
	(14)脱いだ服や持ち物はきちんと整理できる	3.63 ***				2.91 :	2.63 .
	(22)出かけるときには、何が必要なか自分で判断し、必要なものを持っていくことができる	0.8 N. S.					
	(7)友達よりうまくできないことがあっても、いやになったりせず頑張りとおすことができる	4.24 ***		2.78 .		2.55 .	3.83 ***
	(18)必要な時に、ありがとう、ごめんなさいが言える	2.72 **				2.78 **	
	(17)できないことがあるとできるようになるまで努力し続ける方だ	-0.29 N. S.					
	(4)決められた時間に遅刻しないで行くことができる	-0.36 N. S.					
	(9)朝、人に起こされなくても、自分で起きることができる	4.69 ***				2.31 .	4.57 ***
	(2)歩いている途中で疲れても、もんくを言わないで歩きとおすことができる	3.63 ***	2.12 .			3 **	2.21 .
	(12)工作している途中で、失敗した部分があっても、自分で工夫して作品を完成させることができる	-0.04 N. S.	-2.28 .			2.47 .	
	(21)困っている友だちを助けてあげることができる	0.22 N. S.					
	(23)天候の変化が敏感に分かる	-2.51 .	-4.07 ***				
	対人関係スキル	(8)新しい友達を簡単に作れる	2.28 .				2.91 **
(3)だれとでも気軽に話ができる		2.64 **		2.15 .		2.08 .	
(16)みんなのできないようなむずかしいことに挑戦する方だ		-1.16 N. S.	-2.47 .	2.76 .			
(13)遊んでいる仲間にあとから加わることができる		1.33 N. S.				3.64 **	
(24)大人や年上の人に自分の考えを言える		1.08 N. S.			2.26 .		
自然への感性	(20)自然の中の活動は気持ちがいい	-0.69 N. S.					
	(15)自然の中に行くと新しい発見がある	2.7 **				2.18 .	
	(25)草花や自然の景色を見て感動することがある	-0.64 N. S.	-2.72 **				
	(10)自然と人間の生活には深いかわりがあると思う	1.76 N. S.					
	(5)食べていい木の実や草を知っている	0.39 N. S.	-2.52 .				2.32 .
リーダーシップ	(11)何かやろうとすると、リーダーになってやる方だ	2.41 .					
	(1)班長やリーダーを積極的に引き受けすることができる	3.97 ***				3.14 **	4.3 ***
	(6)みんなの意見をまとめることが得意である	3.38 **				2.67 .	3.45 **

***p<.001 **p<.01 *p<.05 N. S.:有意差なし n:サンプル数(人)

抽出された4つの因子の下位項目について、兵庫県自然学校の特徴の一つである実施期間の長さによって児童の態度変容を見た。

実施期間ごとの態度変容を事前調査、事後調査で対応のあるt検定をした結果の一覧を表9に表した。

全体では「自己判断力・自己成長」因子では6項目、「対人関係スキル」では2項目、「自然への感性」では1項目、「リーダーシップ」では3項目が有意に変化している。しかし実施期間ごとに分けて分析すると因子ごとに変化する項目が変わってきていることが分かる。

「自己判断力・自己成長」因子では、1泊2日から4泊5日では変化する項目が大変少ない。特に1泊2日では得点が有意に減少した項目が2項目現れてきている。逆に5泊6日以上長期になると変化した項目の数も大きく増えており、自己成長、自己判断力について効果が現れてきていることが分かる。体験が長期になることで、我慢する回数が増えたり、嫌なこともがんばりとおせたりする。朝自分で起きることも成功体験が積み重なれば、達成感につながる。短期であれば嫌なことも少しの間我慢すればすますことができる。期間が長くなればこそその効果である。

「対人関係スキル」因子でも、自己判断力・自己成長因子と同様の傾向が見られた。短期であれば得点がプラスの変化項目は見られないが、長期では変化する項目が出現した。学校内とは異なった新しい人間関係づくりにかけることができる時間が確保できていることが推測される。

「自然への感性」因子では、1泊2日では得点が低下した変化項目が現れ、逆に期間が長くなることで変容がはじめて見られた。

「リーダーシップ」も同様に長期体験することで変容が見られた。多くの児童がリーダー的役割を担当する機会が、自然体験学習のなかで多く確保されていたり、みんなの意見をまとめないといけない状況がプログラム中や生活の中で起きてきていることが考えられる。

以上のことから自然体験学習では期間が短いとなかなかねらいとする態度変容は現れないが、長期間体験することで様々な態度項目で変容が見られた。

兵庫県自然学校は当初から5泊6日の日程で行なわれている。期間が長くなることでテーマ性を持ってプログラムを立案し、展開することができる。また、児童参画のプログラムや、指導補助員等のボランティアスタッフが指導體制に組み込まれるようになり、明確な目的ねらいのもとにプログラムが展開されることで、より効果的な自然学校となる。

2. 4. 因子レベルの変化

自然体験学習による態度変容に関する4因子について、各因子の因子負荷量が0.50以上の項目を選び、自然体験学習の事前調査時と事後調査時の因子合計得点の平均値と標準偏差を算出した。

そして因子ごとに合計する項目数が違うため、因子合計得点の満点値も異なってくる。因子間の結果が比較しやすいように、それぞれ合計した項目数で割って、因子合計得点を4点満点に換算した。その数値をもとに、対応のあるt検定を行なった。結果を表10に表した。

表10 自然体験学習前後の参加児童の態度変容 (因子合計得点)

N=359	事前調査	事後調査	事後—事前	
	Mean (SD)	Mean (SD)	平均値 増加分	t値
自己判断力・自己成長	2.45 (0.83)	2.57 (0.85)	0.12	4.06***
対人関係スキル	2.38 (1.16)	2.51 (1.15)	0.14	3.04**
自然への感性	2.46 (0.94)	2.51 (0.94)	0.05	1.29
リーダーシップ	1.48 (1.11)	1.64 (1.12)	0.17	4.81***

***p<.001 **p<.01 *p<.05

その結果、事後調査では「リーダーシップ」(0.17点増加)、「対人関係スキル」(0.14点増加)、「自己判断力・自己成長」(0.12点増加)の順で、有意な向上が見られた。

自然体験学習のねらいとして他者と自分との良い関係を知ることを重要視した小学校が半数あり、またプログラム内容も登山やキャンプファイヤー、カッター活動、ウォークラリー、野外炊飯、サイクリングなどどちらかというと自然に関する活動よりも冒険的な活動、仲間づくり的な活動が多く見られる。結果としてそこでの達成感や自信

が以上3つの因子が向上した要因ではないかと考えられる。

2. 4. 1. 実施期間の長さによる比較

各因子の下位項目について実施期間の長さで比較した結果、長期であれば効果を表す項目が増えてくる結果となった(表9)。このことを再度、因子レベル(因子合計得点)で見た結果が表11~表13である。

表11 参加児童の態度変容(4泊5日より短い期間)

N=206	事前調査	事後調査	事後-事前	
	Mean (SD)	Mean (SD)	平均値 増加分	t値
自己判断力・ 自己成長	2.45 (0.82)	2.50 (0.84)	0.05	0.20
対人関係 スキル	2.33 (1.15)	2.42 (1.19)	0.09	0.15
自然への 感性	2.45 (0.92)	2.43 (0.91)	-0.02	0.78
リーダー シップ	1.53 (1.13)	1.62 (1.10)	0.09	0.07

表12 参加児童の態度変容(6泊7日)

N=56	事前調査	事後調査	事後-事前	
	Mean (SD)	Mean (SD)	平均値 増加分	t値
自己判断力・ 自己成長	2.32 (0.76)	2.59 (0.76)	0.27	3.56**
対人関係 スキル	2.28 (1.18)	2.62 (0.98)	0.34	3.01**
自然への 感性	2.38 (1.02)	2.56 (1.00)	0.18	1.77
リーダー シップ	1.15 (0.99)	1.39 (1.05)	0.23	3.79***

表13 参加児童の態度変容(兵庫県自然学校:5泊6日)

N=97	事前調査	事後調査	事後-事前	
	Mean (SD)	Mean (SD)	平均値 増加分	t値
自己判断力・ 自己成長	2.51 (0.90)	2.71 (0.90)	0.20	3.19**
対人関係 スキル	2.53 (1.16)	2.66 (1.14)	0.13	1.50
自然への 感性	2.52 (0.94)	2.63 (0.94)	0.11	1.47
リーダー シップ	1.54 (1.11)	1.84 (1.20)	0.30	4.22***

***p<.001 **p<.01 *p<.05

自然体験学習の実施期間が4泊5日より短いと、有意に得点が増えた因子は見られない。5泊6日の兵庫県自然学校では「自己判断力・自己成長」と「リーダーシップ」の因子合計得点が、6泊7日

の自然体験学習では「自己判断力・自己成長」と「リーダーシップ」に加えて「対人関係スキル」の因子合計得点が有意に上昇した。

このことは「2. 3.」で考察した内容がさらに明確に結果として確認されたことになる。

4泊5日より短期間の自然体験学習では児童の態度は有意に変化しないことが伺える。また、変化する因子としては自然に関するよりも、人間関係や自分自身に関わる因子となっている。

2. 4. 2. 児童の生活体験の度合いによる比較

生活体験上位群における自然体験学習参加児童の態度の変容を因子レベルで見たのが表14、下位群の児童の態度変容を見たのが表15である。

表14 参加児童の態度変容(生活体験上位群)

N=261	事前調査	事後調査	事後-事前	
	Mean (SD)	Mean (SD)	平均値 増加分	t値
自己判断力・ 自己成長	2.66 (0.76)	2.78 (0.79)	0.12	3.51**
対人関係 スキル	2.65 (1.09)	2.75 (1.11)	0.10	1.93
自然への 感性	2.63 (0.85)	2.66 (0.87)	0.03	0.73
リーダー シップ	1.74 (1.11)	1.90 (1.11)	0.16	3.79***

表15 参加児童の態度変容(生活体験下位群)

N=69	事前調査	事後調査	事後-事前	
	Mean (SD)	Mean (SD)	平均値 増加分	t値
自己判断力・ 自己成長	1.82 (0.76)	1.98 (0.80)	0.16	1.90
対人関係 スキル	1.50 (0.99)	1.87 (1.06)	0.37	3.23**
自然への 感性	1.72 (0.95)	1.97 (0.96)	0.25	2.61*
リーダー シップ	0.67 (0.71)	0.89 (0.85)	0.22	3.47**

***p<.001 **p<.01 *p<.05

因子合計得点は、生活体験上位群が生活体験下位群より、どの因子においても得点は高い結果となっている。

有意に得点が増えた因子は、上位群では「自己判断力・自己成長」「リーダーシップ」の2因子であるのに対して、下位群では「対人関係スキル」「自然への感性」「リーダーシップ」の3因子であった。

生活体験が多い児童よりも少ない児童にとって

自然体験学習の場面で、より多くの因子で効果があることが示唆された。また、生活体験が多い児童では自己判断力・自己成長の面で効果があり、少ない児童にとっては対人関係や自然への感性で効果が見られる。そしてリーダーシップについては生活体験による差は見られず、ともに効果があることがわかった。

兵庫県自然学校では、生活体験上位群では同じ因子で有意な変化が見られたが、生活体験下位群では変化が見られた因子はなかった。(表16、表17)

表16 参加児童の態度変容

(兵庫県自然学校：生活体験上位群)

N=70	事前調査	事後調査	事後—事前	
	Mean (SD)	Mean (SD)	平均値増加分	t値
自己判断力・自己成長	2.80 (0.71)	3.01 (0.91)	0.21	3.09**
対人関係スキル	2.83 (1.08)	2.95 (1.06)	0.11	1.17
自然への感性	2.75 (0.84)	2.84 (0.84)	0.09	1.00
リーダーシップ	1.80 (1.11)	2.12 (1.16)	0.32	3.66***

表17 参加児童の態度変容

(兵庫県自然学校：生活体験下位群)

N=18	事前調査	事後調査	事後—事前	
	Mean (SD)	Mean (SD)	平均値増加分	t値
自己判断力・自己成長	1.62 (0.99)	1.93 (0.88)	0.31	1.60
対人関係スキル	1.56 (0.99)	2.00 (1.02)	0.44	1.59
自然への感性	1.56 (0.83)	1.92 (0.83)	0.36	2.10
リーダーシップ	0.74 (0.71)	0.94 (0.85)	0.20	1.57

***p<.001 **p<.01 *p<.05

2. 4. 3. 児童の自然体験の度合いによる比較

自然体験上位群における自然体験学習参加児童の態度の変容を因子レベルで見たのが表18、下位群の児童の態度変容を見たのが表19である。

表18 参加児童の態度変容 (自然体験上位群)

N=253	事前調査	事後調査	事後—事前	
	Mean (SD)	Mean (SD)	平均値増加分	t値
自己判断力・自己成長	2.63 (0.77)	2.70 (0.83)	0.07	2.12*
対人関係スキル	2.67 (1.04)	2.73 (1.07)	0.06	1.16
自然への感性	2.72 (0.83)	2.72 (0.89)	0.00	0.02
リーダーシップ	1.74 (1.09)	1.88 (1.09)	0.14	3.21**

表19 参加児童の態度変容 (自然体験下位群)

N=106	事前調査	事後調査	事後—事前	
	Mean (SD)	Mean (SD)	平均値増加分	t値
自己判断力・自己成長	2.02 (0.81)	2.26 (0.83)	0.24	4.11***
対人関係スキル	1.68 (1.14)	2.01 (1.17)	0.33	3.64***
自然への感性	1.83 (0.90)	2.00 (0.85)	0.17	2.27*
リーダーシップ	0.86 (0.88)	1.09 (1.00)	0.23	4.29***

***p<.001 **p<.01 *p<.05

因子合計点数は生活体験上位群・下位群と同様に、自然体験上位群が自然体験下位群より、全ての因子で得点が高くなっている。

有意に得点が上がった因子は、上位群では「自己判断力・自己成長」、「リーダーシップ」の2因子であるのに対して、下位群では「自己判断力・自己成長」、「リーダーシップ」だけでなく「自然への感性」「対人関係スキル」の全て4因子であった。

自然体験上位群では生活体験上位群と同様の効果が見られたが、自然体験の少ない児童にとって自然体験学習の場面で得られる効果は、自然体験の多い児童よりも高いことが示唆された。

兵庫県自然学校では、自然体験上位群では同じ因子(「自己判断力・自己成長」「リーダーシップ」)に変化が見られたが、自然体験下位群では「対人関係スキル」と「リーダーシップ」の因子にのみ変化が見られた。自然学校では自然体験の少ない児童に対しての指導法やプログラム、生活の工夫が必要だと思われる。

表20 参加児童の態度変容

(兵庫県自然学校：自然体験上位群)

N=68	事前調査	事後調査	事後—事前	
	Mean (SD)	Mean (SD)	平均値 増加分	t値
自己判断力・ 自己成長	2.72 (0.76)	2.89 (0.84)	0.17	2.44*
対人関係 スキル	2.83 (0.96)	2.86 (1.03)	0.03	0.28
自然への 感性	2.81 (0.82)	2.96 (0.79)	0.15	1.71
リーダー シップ	1.81 (1.07)	2.09 (1.11)	0.28	3.30**

表21 参加児童の態度変容

(兵庫県自然学校：自然体験下位群)

N=29	事前調査	事後調査	事後—事前	
	Mean (SD)	Mean (SD)	平均値 増加分	t値
自己判断力・ 自己成長	2.03 (1.04)	2.31 (0.93)	0.24	2.04
対人関係 スキル	1.81 (1.29)	2.21 (1.27)	0.33	2.19*
自然への 感性	1.84 (0.85)	1.88 (0.83)	0.17	0.24
リーダー シップ	0.91 (0.92)	1.24 (1.21)	0.23	2.65*

***p<.001 **p<.01 *p<.05

【ま と め】

本研究では、兵庫県自然学校と他都県で実施される学校教育活動として小学5年生あるいは小学6年生で宿泊を伴った自然体験学習に取り組んでいる小学校の実態とその教育的効果について調査した結果、以下のことが明らかになった。

1. 他都県でも学校の教育課程に位置付け、自然体験学習に取り組んでいるが、多くの小学校ではその期間は短い。兵庫県自然学校の5泊6日より長期のものは、東京都の6泊7日であった。
2. 指導体制について、兵庫県自然学校では指導員、指導補助員等のボランティアが組み込まれているが、他都県では担当教員、あるいは施設指導員のみで指導をおこなっている。
3. 保護者負担金額は、1泊あたり平均2,689円であったが、兵庫県自然学校では県と市町からの補助があるため2,000円までの金額となっている。
4. 自然体験学習の実施について、枠組み、ねらい、立案、事前指導、事後指導について、兵庫県自然学校と他都県の小学校と大きな違いは見られなかった。
5. 自然体験学習の教育的効果について、児童の態度変容から見ると「自己判断力・自己成長」「対人関係スキル」「自然への感性」「リーダーシップ」の4つの因子で有意に変化が見られた。
6. 児童の態度変容について、因子別の下位項目の変化や因子合計得点から、自然体験学習の実施期間で見ると、4泊5日より短期間であればどの因子にも効果が見られなかった。5泊6日より長期になると変化する態度項目の数も増え、因子得点も有意に上昇した。
7. 生活体験の多い児童と少ない児童では態度変容に違いが出る。
8. 自然体験の多い児童と少ない児童では態度変容に違いが出る。

以上の結果から兵庫県自然学校と他都県で実施される自然体験学習を比較したところ、兵庫県自然学校の大きな特徴は次の3点に集約できる。

- ①態度変容が起きやすい5泊6日という期間であること。
- ②指導体制として学校の自然学校のねらいに基づ

き、教員の指導のもと指導員、指導補助員などのボランティアが主導していること。

③保護者の負担が比較的少ない。

自然学校の泊数を減らしてはという意見がある
とすれば、教育効果の観点からはやはり最低5泊6
日は必要と強調したい。5泊6日間の中で児童は
様々な生活体験や自然体験を経験する。それは成
功体験であったり失敗体験であったりもする。成
功体験を積み重ねたり、あるいは失敗体験を生か
して成功体験に導いたりする時間が確保されてい
ることで、単に経験しただけでなく、その経験が
自分のものとなり、新たな一步を踏み出す原動力
ともなってくるのである。

また児童の生活体験度や自然体験度の違いによ
ってプログラムの影響の仕方が異なることから、
クラス内のグループ分け以外に体験度の違いによ
るグループ活動を取り入れることによって大きな
教育効果を得ることができることも示唆された。

【おわりにあたり】

今回の調査を実施するにあたり12校の小学校の
協力をえることができました。甚大なる協力を賜
った、兵庫県、岡山県、広島県、鳥取県、滋賀県、
福井県、東京都の各市区町教育委員会、及びアン
ケート調査にご協力いただいた対象小学校の教
員、児童の皆様に感謝申し上げます。

【参考文献】

1. 国立オリンピック記念青少年総合センター事
業課編、「事業効果測定のための調査費とそ
の利用法—主催事業評価の一方法としての参
加者の変容測定方法の開発に関する調査研究
報告書—」, 国立オリンピック記念青少年総
合センター, 2001年.
2. 南但馬自然学校プログラム研究委員会, 「自
然・人・地域に学ぶ—南但馬自然学校プロ
グラム研究委員会のまとめ—」, 兵庫県立南但
馬自然学校, 1996年.

補足資料

項目	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
1. 法人格取得							
2. 法人格喪失							
3. 法人格取得後の経過							
4. 法人格喪失後の経過							
5. 法人格取得・喪失の効力							
6. 法人格取得・喪失の登記							
7. 法人格取得・喪失の税務上の取り扱い							
8. 法人格取得・喪失のその他の事項							

1. 法人格取得の要件
 ① 資本金の額が千円を超えなければならない。
 ② 定款及び章程を制定し、これを定款及び章程として登記しなければならない。
 ③ 代表取締役を選任し、これを登記しなければならない。
 ④ 住所を定め、これを登記しなければならない。

2. 法人格喪失の要件
 ① 資本金の額が千円以下となるときは、法人格を喪失する。
 ② 定款及び章程を制定し、これを定款及び章程として登記しなかったときは、法人格を喪失する。
 ③ 代表取締役を選任し、これを登記しなかったときは、法人格を喪失する。
 ④ 住所を定め、これを登記しなかったときは、法人格を喪失する。

項目	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
1. 法人格取得							
2. 法人格喪失							
3. 法人格取得後							
4. 法人格喪失後							
5. 法人格取得・喪失の効力							
6. 法人格取得・喪失の登記							
7. 法人格取得・喪失の税務上の取り扱い							
8. 法人格取得・喪失のその他の事項							

1. 法人格取得の要件
 ① 資本金の額が千円を超えなければならない。
 ② 定款及び章程を制定し、これを定款及び章程として登記しなければならない。
 ③ 代表取締役を選任し、これを登記しなければならない。
 ④ 住所を定め、これを登記しなければならない。

2. 法人格喪失の要件
 ① 資本金の額が千円以下となるときは、法人格を喪失する。
 ② 定款及び章程を制定し、これを定款及び章程として登記しなかったときは、法人格を喪失する。
 ③ 代表取締役を選任し、これを登記しなかったときは、法人格を喪失する。
 ④ 住所を定め、これを登記しなかったときは、法人格を喪失する。

自然学校についてのアンケート 小学校5年 男・女

このアンケートはテストではありません。みなさんが自然学校でどのようなことを感じたか調べるためのものです。相談しないで答えてください。

◎ あなたは自然学校を体験しましたか。どちらかの記号に○をつけてください。

ア 体験した イ 体験していない

アに○をつけた人は、1からの質問に答えてください。

1 自然学校を行う前、どんな気持ちでしたか。あてはまる記号に○をつけて、その理由を書ける人は書いてください。

ア 楽しみにしていた → 理由 ()
 イ 行きたくなかった → 理由 ()
 ウ どちらでもない

◎ ア「楽しみにしていた」に○をつけた人は、どれくらい楽しみにしていましたか。あてはまる数字に○をつけてください。

とても かなり 少し
 楽しみにしていた 楽しみにしていた 楽しみにしていた
 3 2 1

2 自然学校を行う前、心配や不安がありましたか。どちらかの記号に○をつけてください。

ア あった イ なかった

◎ ア「あった」に○をつけた人にたずねます。

・その心配や不安はどれくらいでしたか。あてはまる数字に○をつけてください。

とても かなり 少し
 心配や不安だった 心配や不安だった 心配や不安だった
 3 2 1

・その心配や不安に思うことはどんなことでしたか。

・その心配や不安をなくすために、家や学校でしたことがあれば書いてください。

3 自然学校を行う前に、練習したり、調べたり、相談するなど、何か取り組んだことがあれば書いてください。

4 自然学校を終えたとき、どんな気持ちでしたか。あてはまる記号に○をつけて、その理由を書ける人は書いてください。

ア 楽しかった → 理由 ()
 イ 楽しくなかった → 理由 ()
 ウ どちらでもない

◎ ア「楽しかった」に○をつけた人は、どれくらい楽しかったですか。あてはまる数字に○をつけてください。

とても楽しかった かなり楽しかった 少し楽しかった
 3 2 1

5 自然学校で、感動したことがありますか。どちらかの記号に○をつけてください。

ア あった イ なかった

◎ ア「あった」に○をつけた人にたずねます。

・「感動した」と、その理由が書ける人は「理由」らんに書いてください。いくつでもよろしい。

感動したこと	理由	由
・		
・		
・		
・		
・		

保護者各位 (小学校5年生)

自然学校についてのアンケートのお願い

兵庫県立南但馬自然学校

兵庫県教育委員会では、「美しい兵庫をめざすこころ豊かな人づくり」の施策の一つとして、公立全小学校5年生で自然学校推進事業を実施しています。本年度も多くの児童が、学校や家庭を離れ、豊かな自然の中で貴重な体験をいたしました。

兵庫県立南但馬自然学校は、平成6年5月、自然学校の申請施設として開校し、自然学校の受け入れはもろろん、自然学校をさらに充実させるため、プログラムの開発や調査研究を進めています。

本年度は、自然学校での活動体験や生活体験を児童はどのように感じているのか、また、保護者の皆さんがどのような資料に感じておられるのかを調査・研究し、「生きる力を育む自然学校プログラム」等の開発のための資料にしたいと考えています。

つきましては、ご多忙のところお手数をおかけいたしますが、下記のアンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

自然学校についてのアンケート

小学校5年生保護者 男・女 (○をつけてください。)

1 自然学校を体験させてよかったですか? と思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。

ア 思う イ 思わない ウ どちらでもない

※アと答えた方は「思う理由」より、イと答えた方は「思わない理由」より、それぞれ、その理由について、当てはまる番号に○をつけてください。

思う理由

1. 保護者を離れての集団生活で自主性や協調性が養えた
2. 普段体験できないことができた
3. 友達とのつきあい方を学んだ
4. 自然とゆったりふれあえた
5. 楽しい体験だった
6. 親への感謝の気持ちを持つようになった
7. 不自由な生活体験で我慢強くなった
8. やり遂げることが学んだ
9. 手伝いをするようになった
10. その他 ()

思わない理由

1. 5泊6日は長すぎる
2. 内容が子ども中心ではなかった
3. 実施する意義がよくわからない
4. 実施時期が悪い
5. 長事がよくない
6. 親の金銭的負担が大きい
7. 実施場所が清潔でない
8. 友人関係でゴタゴタがあった
9. その他 ()

2 自然学校に向けて取り組んだことがありますか? あてはまる番号に○をつけてください。

(1)お子様自身が取り組んだこと。

ア あった イ なかった

※「ア あった」と答えた方はお子様自身が取り組んだことについて、あてはまる番号に○をつけてください。

1. 持ち物の準備や確認
2. 自分の身の回りのことは自分でする
3. 早寝早起き等、基本的生活習慣
4. 料理の仕方の練習
5. 体調維持等、健康管理
6. 下着や靴下等の洗濯の練習
7. 係活動についての話し合い
8. スタンプ練習
9. その他 ()

(2)お子様と一緒に取り組んだこと。

ア あった イ なかった

※「ア あった」と答えた方はお子様と一緒に取り組んだことについて、あてはまる番号に○をつけてください。

1. 身の回り等の整理整頓の練習
2. 早寝早起き等、基本的生活習慣の見直し
3. 持ち物等、準備物の用意
4. 体調維持等、健康管理
5. 料理の仕方の練習
6. 下着、靴下等の洗濯の練習
7. トーナチづくり
8. その他 ()

3 お子様、5泊6日の間、家庭を離れて生活しましたが、そのことによりあなたが気がついたり、考えたり、感じたりしたことがありますか? あてはまる番号に○をつけてください。

ア あった イ なかった

※「ア あった」と答えた方は気がついたり、考えたり、感じたりしたことについて、あてはまる番号に○をつけてください。

1. さまざま、子どもの存在の大きさがわかった
2. いない間はいつも気になっていた
3. 先生や友だちと仲良くやっていた
4. 体調を崩したり、病気になるっていいか
5. 子離れの必要性を感じた
6. 静かだった
7. 日頃いかに子ども中心の生活になっていたかわかった
8. 楽しい体験をたくさんしてほしい
9. 兄弟姉妹がとてもしょそそうにしていた
10. その他 ()

4 お子様が自然学校から帰ってきた時、感じたことについて、あてはまる記号に○をつけてください。

1. たくましく、大人びて帰ってきた
2. 衰れていた
3. 一回り大きく成長した
4. 目が生き生きとしていた
5. うれしく、安心した
6. 最後まで参加できてよかった
7. 友だちが増えた
8. 元気で明るくなった
9. 意外にサバサバしていた
10. とても愛おしく思った
11. 好き嫌いがなくよく食べるようになった
12. 不慣れな体験することで我慢強くなった
13. その他 ()

5 自然学校をきっかけにして、お子様が何か変わったと思われることがありましたか？あてはまる記号に○をつけてください。

ア あった イ なかった

※「ア あった」と答えた方は気がついたり、お子様が変わったと思われることについて、あてはまる番号に○をつけてください。

1. 友だち関係等のつきあいが上手になった
2. 家の手伝いをするようになった
3. 物事に積極的に取り組むことができるようになった
4. 自分のできることは自分でできるようになった
5. 自信がつき、たくましくなった
6. 回りの人のことを考えるようになった
7. 我慢強くなった
8. 好き嫌いがなく食べるようになった
9. その他 ()

6 自然学校をきっかけにして、お子様との関わりで何か変えたことがありましたか？あてはまる記号に○をつけてください。

ア あった イ なかった

※「ア あった」と答えた方は気がついたり、お子様との関わりで変えたことについて、あてはまる番号に○をつけてください。

1. 自分のできることは自分でさせるようにした
2. 一人の人間として接するようになった
3. 口を出すことを少なくした
4. 子どもの話を聞くようになった
5. 子どもを信頼するようになった
6. その他 ()

7 もう一度、自然学校のような体験をお子様に使いたいですか。どちらかの記号に○をつけ、その理由を選んでください。

ア させたい イ させたくない

※アと答えた方は「させたいと思う理由」より、イと答えた方は「させたくないと思う理由」より、それぞれ、その理由について、当てはまる番号に○をつけてください。

させたいと思う理由

1. 家を離れて友人等との集団生活の体験が貴重である
2. 家や学校では体験できないことができる
3. 自然の中でいろいろな体験できる
4. やりとげた喜びが味わえる
5. 子どもが楽しんでいた
6. 不自由な体験をすることで我慢強くなる
7. 親子関係を見直すことができる
8. その他 ()

させたくないと思う理由

1. 5泊6日は長すぎる
2. こういふ体験は1回だけで十分である
3. 自然学校の目的や意義がよくわからない
4. プログラムに無理があるから
5. 体のことが心配だから
6. 不慣れなように設定されすぎているから
7. 学習が遅れるから
8. 準備物がたくさん必要だから
9. その他 ()

ご協力ありがとうございました。

4 5月6日の自然学校の生活を通して、心がけるようになったことがありましたか。どちらかの記号に○をつけてください。

ア あった イ なかった

◎ アに○をつけた人にたずねます。

(1)「心がけるようになったこと」の番号に○をつけてください。複数選択可
 (2)その興味・関心は、今どうなっていますか。それぞれの()に下の [] か
 らあてはまるものを選び、記号を書いてください。

「心がけるようになったこと」

- 1 自分のことは自分でする「自主性」…………… ()
- 2 規則正しい生活をする「基本的生活習慣」…………… ()
- 3 他人に迷惑をかけずに協力する等、人とのかわり…………… ()
- 4 自然を大切に…………… ()
- 5 その他 ()…………… ()

A 今も続けておこなっている。

B 時々おこなっている。

C 初めはおこなっていたが、今はおこなっていない。

5 今までに、自然学校の体験が役立ったことがありましたか。どちらかの記号に○をつけてください。

ア あった イ なかった

◎ アに○をつけた人にたずねます。

「自然学校の体験が役立ったこと」の数字に○をつけてください。複数選択可

「自然学校の体験が役立ったこと」

- 1 飯ごう炊飯など、野外料理が作れるようになった
- 2 協力関係が築け、集団生活がスムーズにできるようになった
- 3 自分のことは自分でできるようになった
- 4 星を見るなど、自然とのふれあいが楽しみになった
- 5 友人関係が豊かになった
- 6 火おこしなど、野外活動に自信がもてるようになった
- 7 規則正しい生活ができるようになった
- 8 その他 ()

6 自然学校を終えて、何か自信がもてるようになったことがありますか。どちらかの記号に○をつけてください。

ア ある イ ない

◎ アに○をつけた人にたずねます。

「自信がもてるようになったこと」の数字に○をつけてください。複数選択可

「自信がもてるようになったこと」

- 1 自分の行動に責任がもてる
- 2 料理が作れる
- 3 集団生活が楽しくなった
- 4 親がいなくても一人で生活できる
- 5 自分の可能性が発見できた
- 6 友人関係が豊かになった
- 7 自然とふれあうことが増えた
- 8 テレビを1週間ぐら見なくても大丈夫になった
- 9 健康に注意するようになった
- 10 野外活動に積極的にになってきた
- 11 その他 ()

7 もう一度、自然学校のような体験をしてみたいですか。

ア 体験したい イ 体験したくない

8 兵庫県小学校5年生での自然学校制度は今後も続けるべきだと思いますか？

ア はい イ いいえ

ご協力ありがとうございました。

自然体験学習についてのアンケート

(調査主体：兵庫県立南但馬自然学校)

〈 お 願 い 〉

本調査は、今後の自然体験学習をより充実させるための基礎的な資料を得るためのものです。調査結果も統計的に処理されますので、ご記入内容によって皆様方にご迷惑をおかけするようなことはありません。本調査の主旨をご理解いただきまして、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

※記入にあたってのお願い (必ずお読み下さい)

1. 回答の当てはまる番号を()に記入するものと、答えを()や□の中に記入するものがあります。
2. 特に指示がない限り、番号は1つだけ選んでください。
3. 全ての質問にもれなくお答え下さい。

◇小学校についてお尋ねします。

1. 小学校の立地は、該当する番号を()に記入下さい。……………()
 - ①比較的自然に恵まれた場所に立地している
 - ②比較的自然の少ない場所に立地している
2. 小学校の規模は、
 5年生は、()学級 ()名(全校で 学級 名)
 *障害児学級を含めずに記入してください

◇あなたの小学校で行われた、自然体験学習についてお尋ねいたします。

3. 宿泊をとまっていますか、該当する番号を()に記入下さい。……………()
 - ①は い
 - ②いいえ
4. 実施日程は、平成16年()月()日 ~ ()月()日
 ()泊 ()日
5. 児童からの徴収金額は、()円
6. 宿泊は、該当する番号を()に記入下さい。……………()
 - ①1ヶ所滞在型
 - ②移動型
 - ③その他 ()
 宿泊施設名を教えてください。 立

7. 宿泊の形態について、該当する番号を一つ () に記入下さい。……………()

- ①全日程を宿舍泊
- ②主に宿舍泊でテント泊を含む
- ③主にテント泊で宿舍泊を含む
- ④全日程をテント泊
- ⑤その他 ()

8. 実施の枠組みは、該当する番号を一つ () に記入下さい。……………()

- ①学校行事
- ②総合的学習
- ③特別活動
- ④教科学習
- ⑤その他 ()

9. 実施に向けて教師と児童が一緒になって準備に要した日数、および時間を教えてください。

() 日 延べ () 時間 (45分を1時間として換算して下さい)

10. 実施後、事後学習に要した (予定している) 日数、および時間を教えてください。

() 日 延べ () 時間 (45分を1時間として換算して下さい)

11. 実施に当たり、最も重要視した「ねらい」は、該当する番号を一つ () に記入下さい。……()

- ①自然と自分とのより良い関係を知る (自然に親しむ、自然を知る、自然に対する感受性、環境教育)
- ②他者と自分とのより良い関係を知る (仲間作り、指導者とのつながり、協調性)
- ③新しい自分の発見 (自主・自立性、忍耐力、責任感)
- ④自然体験活動技術の修得
- ⑤地域とのふれあい (地域の文化を知る、地域と交流する)
- ⑥健康と体力の増進
- ⑦基本的な生活訓練
- ⑧その他 ()

12. 活動プログラムの立案は、該当する番号を一つ () に記入下さい。……………()

- ①教員主導型
- ②児童参画型
- ③施設職員主導型
- ④その他 ()

13. 指導体制は、該当する番号を一つ（ ）に記入下さい。……………()

- ①教員が主となって行った
- ②施設職員が主となって行った
- ③ボランティアスタッフ（指導員、指導補助員を含む）が主となって行った
- ④その他（ ）

14. 期間中の天候は、該当する番号を一つ（ ）に記入下さい。……………()

- ①おおむね晴天
- ②雨天の日もあった
- ③期間中、ずっと雨天が続いた

15. 期間中行われた主な活動プログラムをご記入ください。

しおりなどのプログラムが載せられた部分をコピーして添付していただいても結構です。

この欄に、期間中に行われた主な活動プログラムを記入してください。しおりなどのプログラムが載せられた部分をコピーして添付していただいても結構です。

1. 活動の名称、実施する番号を（ ）に記入下さい。

2. 実施の趣旨は、

3. 実施の場所は、

4. 実施の期間は、

5. 実施の担当者、

6. 実施の参加者、

7. 実施の感想、

《ご協力ありがとうございました》

自然体験学習に参加するにあたってのアンケートのお願い

この調査は、みなさんの現在の生活のようすを知り、今後の活動を楽しむためのものです。テストではないので気楽に答えてください。すべての質問に答えてください。

1. あなたのクラスと出席番号は、（ ）クラス 出席番号（ ）

2. 性別（男子・女子）

3. あなたは、次のようなことをどのくらいしたことがありますか。（ ）の中の当てはまる番号に○を付けてください。

例) 買い物のお手伝いをしたこと (1.何度もある (2.時々ある) 3.あまりない 4.全くない)

(1) ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと (1.何度もある 2.時々ある 3.あまりない 4.全くない)

(2) タオルやぞうきんをしぼったこと (1.何度もある 2.時々ある 3.あまりない 4.全くない)

(3) 道路や公園などに捨てられているゴミを拾ったりしたこと (1.何度もある 2.時々ある 3.あまりない 4.全くない)

(4) 弱いものいじめやケンカをやめさせたり、注意したこと (1.何度もある 2.時々ある 3.あまりない 4.全くない)

(5) 赤ちゃんのオムツをかえたり、ミルクをあげたこと (1.何度もある 2.時々ある 3.あまりない 4.全くない)

(6) 小さい子どもを背負ったり、遊んであげたりしたこと (1.何度もある 2.時々ある 3.あまりない 4.全くない)

(7) チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと (1.何度もある 2.時々ある 3.あまりない 4.全くない)

(8) 海や川で貝をとったり、魚を釣ったりしたこと (1.何度もある 2.時々ある 3.あまりない 4.全くない)

(9) 大きな木に登ったこと (1.何度もある 2.時々ある 3.あまりない 4.全くない)

(10) ロープウェイやリフトを使わず高い山に登ったこと (1.何度もある 2.時々ある 3.あまりない 4.全くない)

(11) 太陽が昇るところや沈むところを見たこと (1.何度もある 2.時々ある 3.あまりない 4.全くない)

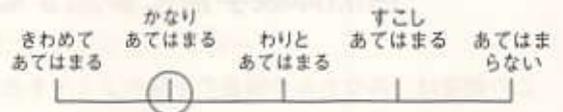
(12) 夜空いっぱいにかがやく星をゆっくり見たこと (1.何度もある 2.時々ある 3.あまりない 4.全くない)

(13) 野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと (1.何度もある 2.時々ある 3.あまりない 4.全くない)

(14) 海や川で泳いだこと (1.何度もある 2.時々ある 3.あまりない 4.全くない)

(15) キャンプをしたこと (1.何度もある 2.時々ある 3.あまりない 4.全くない)

4. 自分のことについてあてはまるところに○をつけてください。



(例) よく手伝いをするほうだ

- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| (1) 班長やリーダーを積極的に引き受けることができる | | | | |
| (2) 歩いている途中で疲れても、もんくを言わないで歩きとおすことができる | | | | |
| (3) だれとでも気軽に話ができる | | | | |
| (4) 決められた時間に遅刻しないで行くことができる | | | | |
| (5) 食べていい木の実や草を知っている | | | | |
| (6) みんなの意見をまとめることが得意である | | | | |
| (7) 友達よりうまくできないことがあっても、いやになったりせず頑張りとおすことができる | | | | |
| (8) 新しい友達を簡単に作れる | | | | |
| (9) 朝、人に起こされなくても、自分で起きることができる | | | | |
| (10) 自然と人間の生活には深いかわりがあると思う | | | | |
| (11) 何かやろうとすると、リーダーになってやる方だ | | | | |
| (12) 工作している途中で、失敗した部分があっても、自分で工夫して作品を完成させることができる | | | | |
| (13) 遊んでいる仲間にあとから加わることができる | | | | |
| (14) 脱いだ服や持ち物はきちんと整理できる | | | | |
| (15) 自然の中に行くと新しい発見がある | | | | |
| (16) みんなのできないようなむずかしいことに挑戦する方だ | | | | |
| (17) できないことがあるとできるようになるまで努力し続ける方だ | | | | |
| (18) 必要な時に、ありがとう、ごめんなさいが言える | | | | |
| (19) 暑い時や寒い時に自分で衣服を調整することができる | | | | |
| (20) 自然の中の活動は気持ちがいい | | | | |
| (21) 困っている友だちを助けてあげることができる | | | | |
| (22) 出かけるときには、何が必要なか自分で判断し必要なものを持っていくことができる | | | | |
| (23) 天候の変化が敏感にわかる | | | | |
| (24) 大人や年上の人に自分の考えを言える | | | | |
| (25) 草花や自然の景色を見て感動することがある | | | | |

《ご協力ありがとうございました。》

自然体験学習に参加してのアンケート

1. あなたのクラスと出席番号は、 () クラス 出席番号 ()

2. 次のことがらは、事前調査と同じ内容ですが、今はどの程度あてはまりますか。あてはまると思うところに○をつけてください。テストではないので気楽に答えてください。

きわめてあてはまる
かなりあてはまる
わりとあてはまる
すこしあてはまる
あてはまらない

(例) よく手伝いをするほうだ

	<input checked="" type="radio"/>			
--	----------------------------------	--	--	--

(1) 班長やリーダーを積極的に引き受けることができる |_|_|_|_|

(2) 歩いている途中で疲れても、もんくを言わないで
歩きとおすことができる |_|_|_|_|

(3) だれとでも気軽に話ができる |_|_|_|_|

(4) 決められた時間に遅刻しないで行くことができる |_|_|_|_|

(5) 食べていい木の実や草を知っている |_|_|_|_|

(6) みんなの意見をまとめることが得意である |_|_|_|_|

(7) 友達よりうまくできないことがあっても、
いやになったりせず頑張りとおすことができる |_|_|_|_|

(8) 新しい友達が簡単に作れる |_|_|_|_|

(9) 朝、人に起こされなくても、自分で起きることができる |_|_|_|_|

(10) 自然と人間の生活には深いかわりがあると思う |_|_|_|_|

(11) 何かやろうとすると、リーダーになってやる方だ |_|_|_|_|

(12) 工作している途中で、失敗した部分があっても、
自分で工夫して作品を完成させることができる |_|_|_|_|

(13) 遊んでいる仲間にあとから加わることができる |_|_|_|_|

(14) 脱いだ服や持ち物はきちんと整理できる |_|_|_|_|

(15) 自然の中に行くと新しい発見がある |_|_|_|_|

(16) みんなのできないようなむずかしいことに挑戦する方だ |_|_|_|_|

(17) できないことがあるとできるようになるまで努力し
続ける方だ |_|_|_|_|

(18) 必要な時に、ありがとう、ごめんなさいと言える |_|_|_|_|

(19) 暑い時や寒い時に自分で衣服を調整することができる |_|_|_|_|

(20) 自然の中の活動は気持ちがいい |_|_|_|_|

(21) 困っている友だちを助けてあげることができる |_|_|_|_|

(22) 出かけるときには、何が必要なのか自分で判断し、
必要なものを持っていくことができる |_|_|_|_|

(23) 天候の変化が敏感にわかる |_|_|_|_|

(24) 大人や年上の人に自分の考えを言える |_|_|_|_|

(25) 草花や自然の景色を見て感動することがある |_|_|_|_|

《ご協力ありがとうございました。》

平成15・16年度

研究紀要

平成17年3月発行

発行 兵庫県立南但馬自然学校
〒669-5134 兵庫県朝来郡山東町迫間字原189
TEL.079-676-4730・4731
FAX.079-676-4008
<http://www.hyogo-c.ed.jp/shizen-bo/>
Eメール mtajimashizen@pref.hyogo.jp



兵庫県立
南但馬自然学校

HYOGO KENRITSU NANBUTAMA SHIZEN GAKKO

R100
環境省100%再生紙製成紙

16教① 1-065A4